



第7章 連合町内会自治会エリアごとの行動計画（地区別計画）

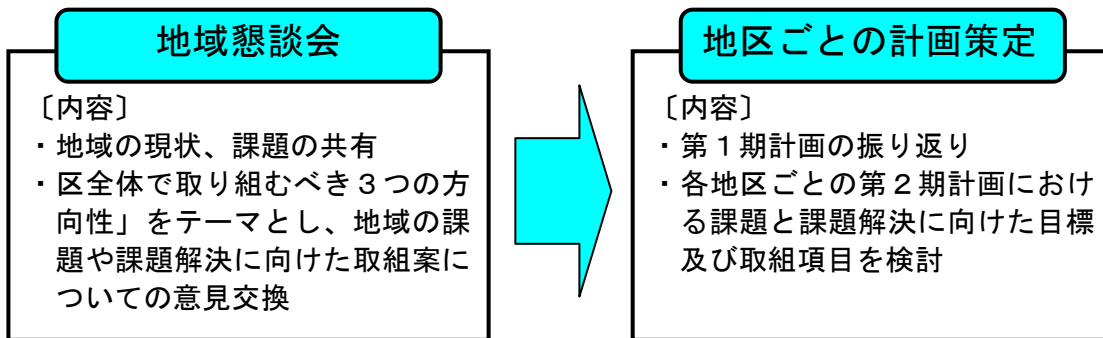
1 地区別計画策定の経過

連合町内会自治会エリアごとの行動計画（地区別計画）は、区内 15 の連合町内会自治会エリアごとに、検討を進めました。

○より多くの地域住民からの意見を反映させた計画づくりを進めるため、平成 22 年 5 月～7 月の期間で、地区ごとに「地域懇談会」を開催しました。

○「地域懇談会」では、地域の現状、課題を共有するとともに、「取組の 3 つの方向性」をテーマとして話し合いを行い、地域の課題や課題解決に向けた取組案についての意見やアイデア出しを行いました。

○その後、平成 22 年 9 月～平成 23 年 1 月の期間で、「地域懇談会」での意見をもとに、第 1 期計画の振り返りを踏まえ、第 2 期計画における地区ごとの目標と取組項目について検討を行いました。



2 地区別計画の掲載内容

1 地区について、4 頁で構成しています。

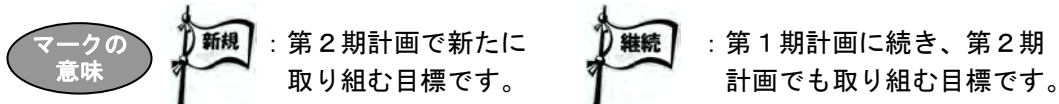
1 頁目…地区の概況

地区ごとの概略と 5 歳階級別人口の推移など統計データからの状況について記載しています。

2 頁目…第 1 期計画の成果と振り返り

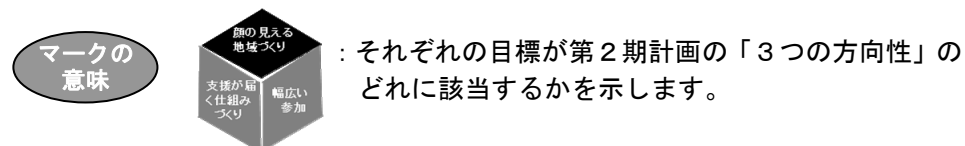
第 1 期計画の目標ごとの成果と振り返りと第 2 期計画に向けた新たな取組について記載しています。

※ふれあいの丘地区、柚木荏田南地区については、第 2 期計画から策定しているため、「3 つの方向性のテーマ」についての話し合いからの目標・取組について記載しています。



3～4 頁目…第 2 期計画の目標と取組

第 2 期計画での現状と課題、目標と取組を記載しています。



～地区別計画目次～

① 東山田地区	63 頁
② 山田地区	67 頁
③ 中川地区	71 頁
④ 勝田茅ヶ崎地区	75 頁
⑤ かちだ地区	79 頁
⑥ 新栄早湊地区	83 頁
⑦ 都田地区	87 頁
⑧ 池辺地区	91 頁
⑨ 佐江戸加賀原地区	95 頁
⑩ 川和地区	99 頁
⑪ 荇田南地区	103 頁
⑫ 渋沢地区	107 頁
⑬ 茅ヶ崎南MGC地区	111 頁
⑭ ふれあいの丘地区	115 頁
⑮ 柚木荇田南地区	119 頁

15 連合町内会自治会
エリア図



東山田地区 東山田一～四丁目、東山田町

地区の概況

早淵川に沿う斜面緑地を境に、西側の東山田一丁目～四丁目は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりなされた地域です。戸建住宅が中心で、一部はニュータウン建設前からの町の区画を残しています。独立行政法人都市再生機構（UR）による中高層の集合住宅が2か所あります。また、中原街道・第三京浜道路沿いは工業地域となっており、事業所が集積しています。

一方、東側の東山田町は斜面緑地に平行し、中原街道に沿う古くからの町並みが一部に残るほか、背後にあったかつての水田は宅地や農地になっています。



○地区内の自治会町内会 : 8

○地区内にある公共施設 : 東山田地域ケアプラザ、
東山田中学校コミュニティハウス

○地区内にある公立小中学校 : 山田小学校、東山田小学校、
東山田中学校

統計データから見た東山田地区

平成5年まで東山田地区の人口は約6,000人で推移してきましたが、港北ニュータウンの供用開始に伴い翌年から増加が始まり、平成22年には12,800人に達しています。年齢別の人口では30歳代前後で転入した人とその子どもの世代の割合が高い傾向があります。

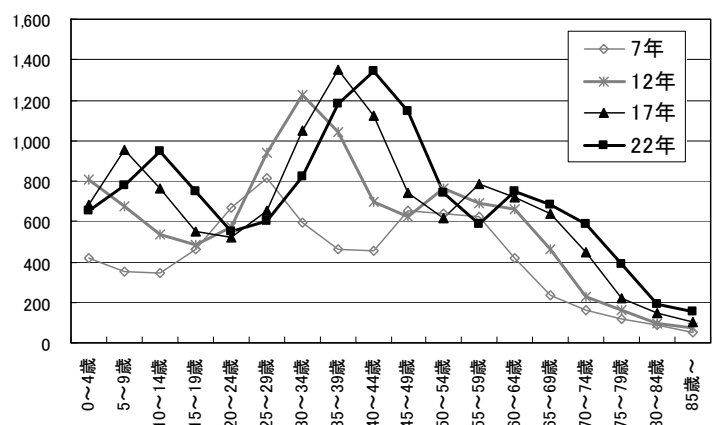
老年人口割合は15.6%で、東山田町で24.7%、開発前からの町の区画を残す東山田四丁目17.2%と高く、それ以外では10%前後です。一方、年少人口割合は18.5%で、東山田一～三丁目20%を超えています。

1世帯当たり人口は地域全体では2.6人ですが、東山田町では2.3人と低くなっています。

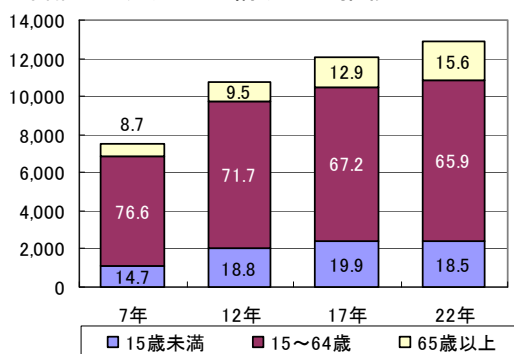
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	7,552	10,748	12,063	12,862
世帯数	2,612	3,849	4,455	4,934
平均年齢	37.6	36.8	38.3	39.8

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 身近な地域での顔の見える関係づくりをさらに進めよう！

継続

自治会町内会活動を通じ、組を単位にしたつながりが意識されています。また、老人クラブや自治会町内会の同好会、福祉部の茶話会などで顔の見える関係を持っています。一方で、地域のつながりの希薄化や自治会町内会への未加入など、地域への関心が低くなっていることも課題となっています。

そこで、2期計画ではこの目標1を引き継ぎ、災害時の助け合いにつながる向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりや自治会町内会加入促進も含めて取り組みます。

目標2 現在行っている活動を着実に進めていこう！

継続

地域ではグラウンドゴルフなどの同好会、老人クラブ活動、防犯パトロールなど行事や活動がたくさんあるため、関心のあるものに参加することでつながっていくことができます。福祉部の活動やふれあいニコニコパーティーなどさわやか東山田の取組は10年を経過し、地域に定着してきました。また、自治会町内会の広報紙で行事の様子や雰囲気や伝わるよう写真を載せるなど、行事に参加しなかった人にも活動内容が伝わる工夫をしています。

一方、地域の活動が知られていないことや、役員の負担感と固定化、担い手の不足などが課題となっています。

そこで、2期計画ではこの目標2を引き継ぎ、担い手の確保も含めて取り組みます。

目標3 地域の行事などを通して、地域・学校・家庭のつながりを深めよう！

継続

10年を経過した「ふれあいニコニコパーティー」は地域に定着し、小学生と高齢者の交流の機会となっています。また、地域の様々な行事に東山田中学校のボランティアが担い手として参加しています。平成21年には学校と地域とを結ぶ東山田中学校学校支援地域本部が設けられ、地域に住むボランティアが「地域コーディネーター」として学校との連携を促進しています。

そこで、2期計画ではこれらの取組や下記の目標4を含めた「まちぐるみで子育ての支援に取り組もう！」を目標として取り組みます。

第2期
計画の
目標3へ



目標4 地域の身近な場所で、親子のたまり場をつくろう！

継続

赤ちゃん会のほか、地域ケアプラザやコミュニティハウスを会場として親子のたまり場など子育て支援事業が行われています。また、地域ケアプラザは子育ての相談の場ともなっています。一方、これらの取組が周知されていないという課題があります。

そこで、2期計画では子育て中の人に必要な情報が伝わるような地域のネットワークづくりを進めることとし、上記の目標3と合わせ「まちぐるみで子育ての支援に取り組もう！」を目標に取り組みます。

第2期
計画の
目標3へ

★2期計画に向けた新たな目標★

新規

これまでの地域懇談会で、災害時などの要援護者支援について話し合ったところ、「要援護者の世帯の状況の把握が難しい。」「障害者の所在が把握できていない。」「支援の必要な人を近所でちょっと見てくれる体制があると良い。」など、地域の支えあいの仕組みを、支援を必要とする人につなげるための仕組みづくりについての意見が多く出ています。

東山田地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 身近な地域での顔の見える関係づくりをさらに進めよう！

現状と課題

地域のつながりやあいさつの重要性についての意識が薄くなっています。また、自治会町内会の加入促進や、若い世代にも参加しやすくなるような取組などでの課題があります。



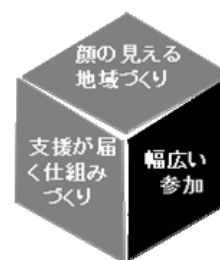
これからこんなことに取り組みます！

- ◇誰もが参加しやすい場で、あいさつを交わすきっかけを持とう。
- ◇自治会町内会の役割や地域のつながりの重要性を、大家さんなどの協力を得ながらPRしよう。
- ◇万一の災害時など、お互い助け合っていくため、「日頃から仲良く」の関係づくりを心がけよう。
- ◇転入者に声をかけるなど、自治会町内会への加入を勧めよう。
- ◇盆踊りや運動会など、子どもも参加し興味をひきやすいイベントから参加してもらおう。

目標2 現在行っている活動を着実に進めていこう！

現状と課題

地域の情報がなかなか伝わっておらず、地域ケアプラザやコミュニティハウスも知られていません。また、担い手も不足・固定化しており、地域活動のPRと担い手の拡大が課題となっています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域の活動や、地域ケアプラザ・コミュニティハウスの取組を広くPRしていこう。
- ◇定年を迎える団塊の世代や中学生ボランティア、パソコンの得意な人など担い手を広げよう。
- ◇仕事を持つ人が無理なくほどほどに活動できるよう、負担を減らしたり、フォローをする仕組みにしていこう。
- ◇地域で行っている活動をお互いに知り、情報交換する機会を持とう。



目標3 まちぐるみで子育ての支援に取り組もう！

現状と課題

子育て情報を必要とする人に、地域の子育ての取組が伝わっていない状況があります。子育て情報のPRや、子育て中の人が一歩外に出るきっかけづくりが必要です。

また、地域の小中学校との良い関係を活かし、世代を超えた交流をしていく必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域の子育て支援の取組をPRし、まちぐるみで子育て支援への理解を広げよう。
- ◇子育て世代への声かけを進め、必要とする支援につなげよう。
- ◇地域の行事などを通して、地域・学校・家庭のつながりを深めよう。



目標4 支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

いざというとき助けてもらいたいという人は多い状況です。組・班の単位では要援護者がいる世帯までは大体把握していますが、各世帯の状況までは分かりません。さらにプライバシーについての意識の高まりやライフスタイルの変化のため、要援護者の所在確認・安否確認が難しくなっています。

また、支援の必要な人を抱えているとき、近所でちょっと見てくれるような体制があると良いとの声も出ています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇要援護者の把握を、組・班・アパートなど小さなブロックを単位として進めよう。
- ◇緊急連絡先を玄関の裏に表示するステッカーの配布や、向こう三軒両隣で連絡先を伝えたりするなど、何らかの方法で緊急時の連絡先が分かるような仕組みづくりを検討しよう。
- ◇地道に活動を行い、支援を必要とする人自らが申し出られるような仕組みにしていこう。

山田地区 北山田一～七丁目、すみれが丘、南山田一～三丁目、南山田町

地区の概況

地域の大半は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。北山田駅は商業施設等が集まるほか、地区センターが立地しています。駅前広場からは、富士塚が残る山田富士公園をはじめ、近隣の公園、学校などが緑道や歩行者自転車専用道路で結ばれています。駅を中心に地域を東西に横断する荏田綱島線沿いは、中高層の商業・業務施設と集合住宅が並んでいます。また公園や大きな道路に沿って中高層の集合住宅が整然と配置されています。



すみれが丘は港北ニュータウンよりも早く昭和44年に開設されました。

南山田町は早淵川に沿う斜面緑地から東側（川側）にあり、ニュータウン開発がなされなかった地域です。旧中原街道沿いでは以前からの町並みを残していますが、背後にあった水田は、現在では宅地や農地になっています。

○地区内の自治会町内会 : 12

○地区内にある公共施設 : 北山田地区センター、北山田小学校コミュニティハウス

○地区内にある公立小中学校 : すみれが丘小学校、北山田小学校、南山田小学校

統計データから見た山田地区

山田地区での港北ニュータウン建設に伴う人口の増加は平成5年から始まり、特に平成6年から11年までの間は毎年2,000規模で急増しました。その後も増加が続き、平成21年には31,000人を越えました。

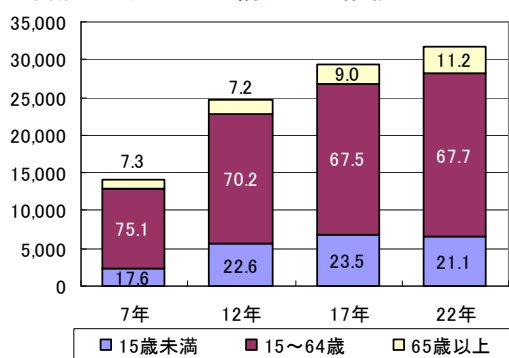
転入者は30歳台が中心で、その子どもの世代も含めた転入又は出生により人口が増加してきました。このため、地域の老年人口割合は11.2%と低くなっていますが、開発がなされなかった南山田町では24.4%、開発が早かったすみれが丘では20.9%と高くなっています。年少人口割合は21.1%で、最近マンションが建設された北山田七丁目では30.8%と高くなっています。

1世帯当たり人口は2.7人ですが、北山田駅前の北山田一丁目や南山田町では2.3人と低くなっています。

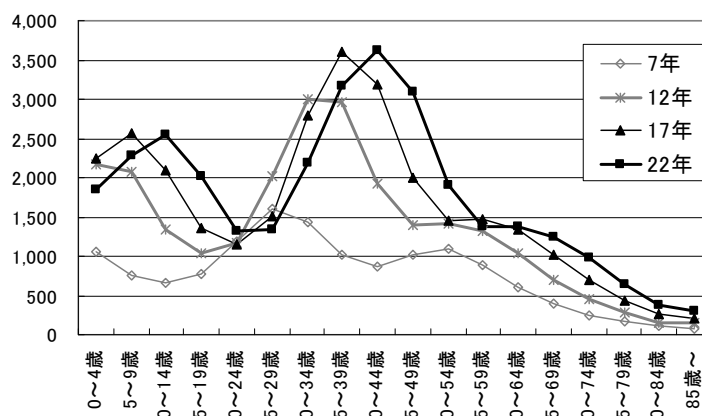
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	13,985	24,656	29,396	31,657
世帯数	4,971	8,612	10,342	11,602
平均年齢	35.2	34.0	35.2	37.1

○年齢3区分別人口構成比の推移



○5歳階級別人口の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 顔の見える関係から地域のネットワークをつくろう！

継続

さくら祭りや虫送りなど地域の伝統行事、盆踊り、七夕やハロウィンなど季節の行事、公園清掃、マンション内の竹林を活用したたけのこほりなど、参加しやすい行事が行われています。また、災害時要援護者支援活動に、障害者、高齢者を含む地域に住む人で取り組みました。一方、若い世代の自治会町内会加入や地域活動への関心が低いことなどが課題となっています。

そこで、2期計画ではこの目標1の中でも顔の見える関係づくりに着目し、「身近な地域でのあいさつや行事をきっかけに、顔の見える関係をつくろう」として取組を進めます。

目標2 まちぐるみで子どもや青少年の育成に関わろう！

継続

虫送りなどの地域の伝統行事や、山田富士公園での清掃や樹名板づくりなど、地域の資源を活かしながら、子どもたちが地域とつながる機会を持っています。また、子育て中の母親の仲間づくりのため、「ママの広場」を開催しています。一方、地域懇談会では、孤独な子育てについて支援が必要との課題提起がありました。

そこで、2期計画ではこの目標を引継ぎ、取り組みます。



目標3 高齢者・障害者の支援をすすめていこう！

継続

災害時要援護者支援活動で、高齢者や障害者など災害時に支援を必要とする人への支援の仕組みをつくりました。また、一人暮らし高齢者を対象とする昼食会などを開催しています。一方、「集合住宅を中心として高齢者など要援護者の把握が困難である。」、「障害者と地域とのつながりが持ちにくい。」、「名簿の更新など災害時要援護者支援の仕組みをどのように継続するのか。」など、課題が挙げられています。

そこで、2期計画ではこの目標を引き継ぎ、目標1による顔の見える関係を基盤に、支援を必要とする高齢者・障害者とのつながりを持ちながら、支援の取組を進めます。

★2期計画に向けた新たな目標★

新規

地域懇談会では、山田地区で活動する団体について、「連合町内会に加入する町内会と未加入の自治会とで連携がうまくとれない。」、「地域の様々な役員について活動を知る機会が必要」、など、地域で活動する団体同士のネットワークについて、課題が挙げられています。そこで、「地域で活動している団体のネットワークをつくろう！」を2期計画での新たな目標として加えます。また、地域の団体の活動を進めるため、担い手の確保が必要です。このため、活動に新しく参加する人のコーディネートについても取組を進める必要があります。

山田地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 身近な地域でのあいさつや行事をきっかけに、顔の見える関係をつくろう！

現状と課題

地域のつながりが薄く、自治会町内会加入率が低い状況です。地域の行事などであいさつを交わす機会を多く持ち、顔の見える関係を築く必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇日頃の暮らしの中で、また地域の行事などで、あいさつを交わす機会を多く持とう。
- ◇賃貸住宅に住む人や転入者に向け、建物のオーナーや販売会社の協力を得て自治会町内会や地域の活動をPRしよう。
- ◇地域のお祭りや季節の行事、公園の清掃など誰もが参加しやすい活動で、顔の見える関係づくりと自治会町内会活動のPRを進めよう。



目標2 地域で活動している団体のネットワークをつくろう！

現状と課題

自治会町内会や地域で活動する団体同士の連携に課題があります。また、活動に携わる役員の負担は大きい一方、新しく活動する人がスムーズに活動に入れるコーディネートにも課題があります。



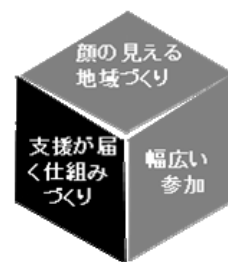
これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域で活動する各種団体間で顔の見える関係をつくろう。
- ◇地域の活動に新しく参加する人がスムーズに入れるよう、コーディネートする人たちを育成しよう。

目標3 まちぐるみで子どもや青少年の育成に関わろう！

現状と課題

「子どもが小さいとき、発達の遅れや子育ての不安をどこに相談したらよいか分からない。」「情報を集められず、外にも出ず、家で子どもと悶々としている人も多い。」など、子育て中の親が孤独な子育てに陥らないよう、情報提供をしたり、必要な支援を進めていくことが課題となっています。



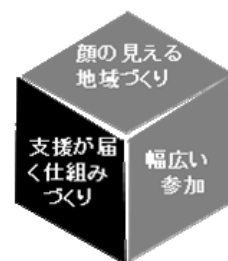
これからこんなことに取り組みます！

- ◇子育て中の世代が集まったり、話ができる場所や機会を持つなど支援しよう。
- ◇子育て支援に関する地域の取組や情報を伝えよう。
- ◇子どもや青少年が地域とつながりを持つ機会を増やそう。

目標4 高齢者・障害者の支援をすすめていこう！

現状と課題

要援護者の世帯の状況の把握が難しいこと、障害者の所在が把握できていないこと、支援の必要な人を近所でちょっと見てくれる体制があると良いことなど、地域の支えあいの仕組みについて課題があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域の取組や情報を、支援を必要とする人に伝えよう。
- ◇障害者と、地域や民生委員児童委員の交流を持とう。
- ◇日頃のちょっとした手伝いを近隣で融通しあう仕組みを作ろう。
- ◇災害時の要援護者支援を引き続き進めよう。



中川地区 あゆみが丘・牛久保一～三丁目・牛久保町・牛久保西一～四丁目・牛久保東一～三丁目・大柵町・大柵西・中川一～八丁目・中川中央一・二丁目

地区の概況

地域の大半は港北ニュータウン開発により計画的なまちづくりがなされた地域です。

センター北駅前周辺はタウンセンターとして大規模商業施設・業務施設及びマンションが集積しています。また中川駅周辺は日常的なサービスを提供する商業施設等が集積するとともに、東京都市大学が立地しています。

その他の地域は低層住宅を中心に、公園・緑道周辺に大規模な集合住宅が点在しています。また、幹線道路沿道は、中高層の建物が並び、商業・業務施設と住宅が併存しています。開発地域内では公園や集合住宅の緑地が緑道や歩行者・自転車専用道路で結ばれています。また、地域南部を流れる早淵川に並行して斜面緑地やそれを生かした比較的大きな公園が点在し、特徴的な景観となっています。

一方、大柵町は港北ニュータウン開発がなされなかった地域で、開発前の雰囲気を残し、中原街道沿いには歴史ある学校や郵便局など公共機関も集まっています。また、牛久保町は都市農業の確立と都市環境保全を目的とする農業専用地区に指定されています。



- 地区内の自治会町内会 : 13
- 地区内にある公共施設 : 中川地域ケアプラザ、中川西地区センター、中川中学校コミュニティハウス
- 地区内にある公立小中学校 : 中川小学校、牛久保小学校、都筑小学校、中川西小学校、中川中学校、中川西中学校

統計データから見た中川地区

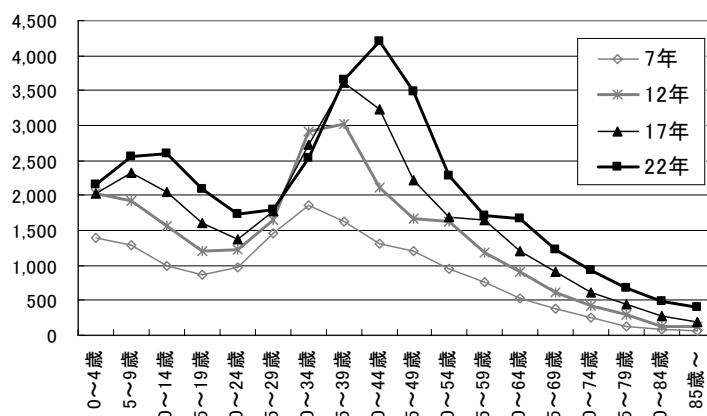
平成元年の中川地区の人口は約 5,000 人でしたが、平成 22 年には 35,000 人に達するなど、地域の人口は増加傾向です。

中川地区の年少人口割合は 20.2% と高くなっており、中川六丁目では 30.6% に達します。老年人口割合は 10.2% ですが、開発が行われなかった地域を中心に高齢化が進んでおり、牛久保東三丁目では 25.9%、大柵町で 24.5%、牛久保町で 22.1% となっています。また、開発前の町並みを残す早淵川沿いの中川三～五、七～八丁目、開発が先行した牛久保西四丁目の高齢化率は 15% 前後と他より高い傾向にあります。

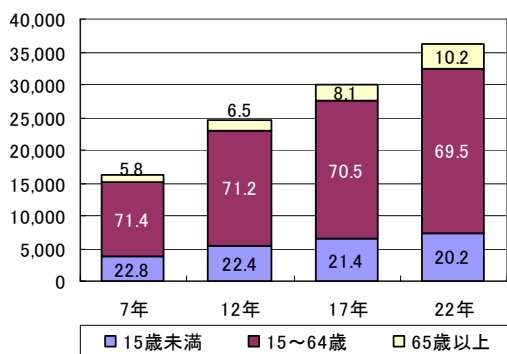
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	16,121	24,590	29,897	36,193
世帯数	5,449	8,609	10,891	13,673
平均年齢	32.9	33.8	35.5	37.2

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 様々な活動や行事をきっかけに顔の見える関係を広げよう！

継続

防犯パトロール、わんわんパトロール、ゴミの分別パトロール、公園清掃、草取り、小学校での会食、歩こう会、盆踊り、体育祭、芋煮会など様々な活動や行事を通じて顔の見える関係づくりが進んでいますが、新しく移り住んできた人や町内会未加入者とのつながりづくりが難しいなどの課題があります。

また、「子どもが大きくなると、人とのつながりがなくなってくる。」「異世代交流が難しい。」などの意見が挙げられています。災害時の助け合いに備える意味でも、引き続き目標1に取り組んでいきます。



目標2 地域の情報やルールをわかりやすくPRしよう！

継続



回覧するチラシには、写真やカラー印刷で分かりやすくしたり、ポスターには子どもの書いた絵を起用したりしています。また、町内会等では、ホームページを活用して行事を知らせたり、活動写真や動画を更新したりと取り組んできていますが、新しく移り住んだ人等への情報提供についての課題があります。また、地域では様々な活動が行われていますが、横のつながりがなく、情報を共有するネットワークをつくっていくためにも、引き続き目標2に取り組んでいきます。

目標3 若い世代に地域活動への参加を呼びかけ、担い手を育てよう！

継続

どんど焼き、焼きいも大会、釣り大会、お祭り、盆踊り、相撲大会、子どもみこし等を通して、幅広い世代の参加があり、おやぢの会や子ども会等若い世代の活動が行われていますが、活動者・参加者の固定化や、担い手の高齢化や不足などの課題があります。これからも様々な人に地域活動に参加してもらうために、引き続き目標3に取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

新規

「災害時に要援護となる人がどこにいるか分からない。」「災害時は高齢者、障害者、乳幼児などへの支援が必要。」「つながりが希薄なことが災害時の課題になっている。」「障害者がどこにいるか分からない、出会いの機会がない。出会い、話し合える場が必要。」など、高齢者・障害者・乳幼児・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりが望まれています。

中川地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 様々な活動や行事をきっかけに顔の見える関係を広げよう！

現状と課題

「向こう三軒両隣のつながりが薄い。隣の人分からない。」「マンション、アパートなどの町内会未加入者が増え、顔が見えない。」「普段あいさつを交わさない人の顔は覚えられない。」など、新しく移り住んできた人や町内会未加入者とのつながりづくりが難しいという課題があります。また、「子どもが小さいと親同士など地域でつながりがあるが、子どもが大きくなるとなくなる」、「同じ世代で集まりやすく、異世代交流が難しい」という現状があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇声かけ、あいさつを進めよう。
- ◇若い世代や町内会未加入者の意見をアンケートなどで聞いてみよう。
- ◇近隣同士など小さな単位から、気軽に集まれる場をつくろう。
- ◇異世代の交流を進めていこう。

※取組については、自治会町内会ごとの実情に応じて進めていきます

目標2 地域の情報やルールをみんなへわかりやすくPRしよう！

現状と課題

地域には様々な情報がありますが、「回覧板は回覧物が多く、読みきれない。回ってくるのにも時間がかかる。」「新しく移り住んだ人、特に転入してきた高齢者には情報が届かない。」など、周知方法の工夫や新しく移り住んだ人等への情報提供についての課題があります。また、地域では様々な活動が行われていますが、横のつながりがなく、情報を共有するネットワークが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇掲示板、メール、口コミなど、地域情報の周知方法を工夫していこう。
- ◇新しく移り住んできた人、転入してきた高齢者などにむけた情報を発信していこう。
- ◇活動者同士のネットワークをつくり、情報共有を進めよう。

※取組については、自治会町内会ごとの実情に応じて進めていきます



目標3 若い世代に地域活動への参加を呼びかけ、担い手を育てよう！

現状と課題

「若い人は仕事があり忙しいので、活動する時間がない。」「パトロールも高齢化が進んでいる。」「転入してきた親子は地域との関わりが持ちにくく、活動に参加しにくい。」など、活動・参加者の固定化、担い手の高齢化や不足の現状があります。



これからこんなことに取り組みます！

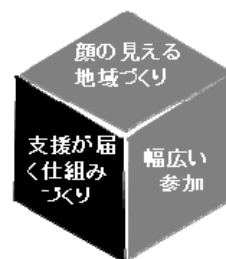
- ◇おやじの会など、男性の力を活かしていこう。
- ◇散歩中のゴミ拾いや防犯活動など、気軽に参加できる活動から参加者を増やそう。
- ◇子ども会など、子どもが参加できる活動をもっとPRして、転入者が参加しやすいきっかけづくりを進めよう。
- ◇子どもたちにイベント等の企画から関わってもらい工夫するとともに、若い世代の参加を増やしていこう。
- ◇子どもの頃から清掃活動など地域活動・行事への参加を進め、次世代の担い手を育てよう。

※取組については、自治会町内会ごとの実情に応じて進めていきます

目標4 高齢者、障害者、こどもなど支援が必要な人へ、支援が届く仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「災害時に要援護となる人がどこにいるか分からない。」「災害時は高齢者、障害者、乳幼児などへの支援が必要。」「つながりが希薄なことが災害時の課題になっている。」「障害者がどこにいるか分からない、出会いの機会がない。出会い、話し合える場が必要。」など、高齢者・障害者・乳幼児・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇災害時に要援護者を支援する体制をつくっていこう。
- ◇要援護者がどこにいるかを知って、日頃から見守っていこう。
- ◇民生委員児童委員や保健活動推進員等の活動者のPRをしていこう。
- ◇障害者や施設、地域の人などが、出会い、話し合う場をつくっていこう。
- ◇認知症の方の見守りを進めていこう。

※取組については、自治会町内会ごとの実情に応じて進めていきます

勝田茅ヶ崎地区 勝田町、勝田南一・二丁目、茅ヶ崎中央、茅ヶ崎町、茅ヶ崎東一～五丁目、茅ヶ崎南一～五

地区の概況

地域の大半は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。

センター南駅前周辺はタウンセンターとして、商業施設、公共施設、マンションが集積しています。その周辺は住宅地が主体で、道路沿いのマンション、道路からやや離れた戸建住宅、大規模な高層住宅と、整然と分けられています。

仲町台駅寄りには新横浜元石川線及びブルーラインの高架沿いに事業所や店舗が多くあります。

また、斜面緑地が大きな公園に、谷戸がせせらぎを伴う緑道に整備され、これに連なる歩行者・自転車専用道路とあわせ、グリーンマトリックスと呼ばれる港北ニュータウンの特徴となっています。

一方、中原街道沿いの勝田町は、昭和42年から整備された勝田団地を除き、古くからの家並みや農地が残っています。

また、茅ヶ崎東四・五丁目、勝田町の早淵川沿いに、高齢者施設及び障害者施設が多く立地しています。



- 地区内の自治会町内会 : 9
- 地区内にある公共施設 : 勝田小学校コミュニティハウス
- 地区内にある公立小中学校 : 勝田小学校、茅ヶ崎小学校、茅ヶ崎台小学校、茅ヶ崎東小学校、茅ヶ崎中学校

統計データから見た勝田茅ヶ崎地区

昭和63年まで勝田茅ヶ崎地区の人口は約8,000人前後でしたが、平成元年頃から毎年1,000人弱の割合で増加しています。茅ヶ崎南一丁目では平成3年に、茅ヶ崎東一・三丁目では平成10～12年に、集合住宅の建設に伴う人口の急増がありました。また、茅ヶ崎中央では平成10年以降毎年350人という速いペースで人口が増加しています。1世帯あたり人口は全体では2.5人ですが、勝田団地のある勝田町で1.9人、センター南駅前の茅ヶ崎中央で2.1人と低くなっています。

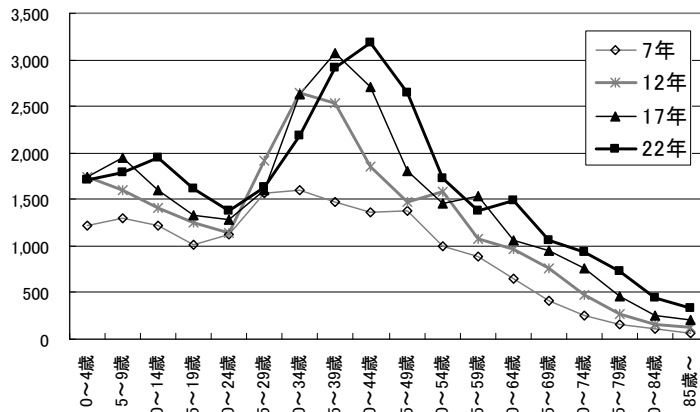
年少人口割合は全体では18.7%で、ニュータウン内では20%を超えるところが多く、茅ヶ崎南二丁目26.8%、茅ヶ崎南三丁目23.4%、茅ヶ崎南五丁目22.2%と高くなっています。一方、茅ヶ崎南一丁目及び茅ヶ崎東三丁目では15年前には30%を超えていましたがその後漸減し、茅ヶ崎南一丁目では11.5%と、勝田町の8.5%に続いて低い割合となっています。

老年人口割合は全体では12.1%で、勝田町で35.4%、茅ヶ崎東五丁目28.2%と高くなっています。

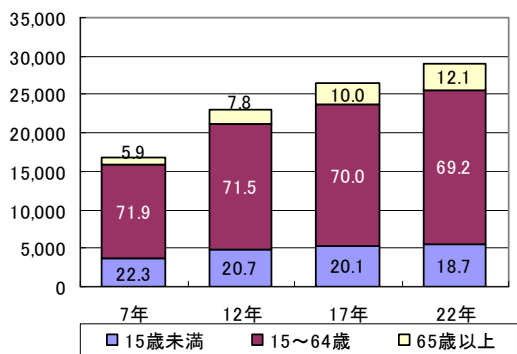
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	16,778	22,967	26,383	29,099
世帯数	6,188	8,797	10,319	11,855
平均年齢	33.4	34.8	36.4	38.3

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりを広げよう！

継続

清掃活動、夏休みのラジオ体操、子ども会やグラウンドゴルフ大会、もちつき、どんど焼き、夏祭り、小学生への交通安全指導や見守りなどの活動を行っています。

これらの活動を通じた顔の見える関係づくりは着実に進んでいます。活動に参加する人が限られていたり、地域の活動の情報が届かない人たちがいるなどの課題が挙げられています。

また、地域懇談会でも災害時の取組のためにも顔の見える関係づくりは大切と言う意見が多いため、引き続き目標1に取り組んでいきます。



目標2 それぞれができることを活かして、地域活動への参加の裾野を広げよう！

継続



米づくり、芋づくり、昔遊び、太鼓・お囃子の練習、浴衣の着付けを教えるなど、地域活動については個人・団体・学校などが活発に取り組んできていますが、若い世代の参加が少ない、活動や行事への参加者の担い手が高齢化・固定化し不足するなどの課題が継続して挙げられています。

また、町内会館などの地域施設を気軽に使えるような仕組みづくりや、様々な人に地域活動に参加してもらうための取組を進めるため、引き続き目標2に取り組んでいきます。

目標3 分かりやすく情報を発信して、地域を知ってもらうための工夫をしよう！

継続

町内会のホームページや活動紹介のちらしを作ったり、回覧板の工夫、ポスティング、直接声をかけるなど、情報提供の方法について工夫しながら取り組んできました。

自治会町内会未加入の人や福祉保健の情報が必要な人への情報提供については課題があるという意見もあるため、引き続き目標3に取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

新規

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある。」などの意見があり、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、地域懇談会や各町内会でも話し合いが行われています。また、福祉についての取組や活動をしていこうなどの意見が出ています。

勝田茅ヶ崎地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりを広げよう！

現状と課題

「転出入が多く、自治会町内会になかなか加入してくれない。」、「つながりづくりが難しい。」という課題が継続してあげられています。また、災害時の取組のためには日頃からの近所付き合いが大切です。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇現在行っている行事や活動を継続していこう。
- ◇グラウンドゴルフや趣味などの同好会やサークルなど、気軽に出かけられる場を増やしていこう。
- ◇大人が子どもにあいさつをする町にしていこう。



目標2 それぞれができることを活かして、地域活動への参加の裾野を広げよう！

現状と課題

参加者や担い手が固定化しているという意見が毎年出ています。地域活動に関わる人を増やしていくことが必要です。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇子どもむけの行事を子どもたちと一緒に企画をして若い世代が参加しやすい活動をしていこう。
- ◇地域活動や行事をPRしていこう。
- ◇町内会館などの地域の施設を気軽に使えるような仕組みづくりを進めていこう。
- ◇自治会町内会に加入する人を増やすために、地域と行政が一緒になって、PRしていこう。
- ◇参加しやすい、好きなことができる場を増やしていこう。
- ◇自治会町内会の活動や町のことを知る人を増やすための講習会を区役所と一緒に開催していこう。



目標3 分かりやすく情報を発信して地域を知ってもらうための工夫をしよう！

現状と課題

地域には様々な情報があります。「地域の活動・行事や福祉保健の情報が必要な人に届いていないのではないか。」、「自治会町内会の情報は未加入の人には届きにくい。」、などの課題があります。地域で活動している団体などの幅広い意見を聞きながら検討していくことが望まれています。



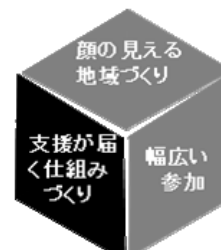
これからこんなことに取り組みます！

- ◇自治会町内会や各団体の活動を共有する場や機会をつくろう。
- ◇回覧板や掲示板以外にホームページでの情報提供をしよう。
- ◇誰でも気兼ねなく、気軽に集まり情報交換ができるような場を増やそう。
- ◇どんな人にも情報が届くような仕組みづくりを考えよう。

目標4 災害時要援護者支援事業「つづき そなえ」の取組を進めよう！

現状と課題

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」、「災害があったときにまちぐるみで助け合い、支えあう必要がある。」などの意見があり、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方などの要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、懇談会や各町内会で話しが行われています。また、福祉についての取組や活動をしていくことが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域の中にいる要援護者や閉じこもりがちの方への支援を民生委員児童委員や町内会全体で行ってよう。
- ◇地域の中にある高齢者・障害者・子ども関係の施設や関係者と一緒に、話し合いながら進めてよう。
- ◇日頃の近所付き合いの中から要援護者に対する理解を深めてよう。
- ◇災害時の助け合いの仕組みづくりについて取り組んでいき、その取組を地域の人たちに伝えてよう。
- ◇地域で福祉保健の活動をしている人たち（民生委員児童委員・保健活動推進員・食生活等改善推進員等）のPRをしよう。



かちだ地区 勝田団地

地区の概況

市営勝田住宅（勝田団地）を範囲とする地域です。勝田団地は、昭和41年から61年に建設され、41棟・1534戸からなります。設備の老朽化対策とバリアフリー化のため、平成15年度より住戸改善事業が行われており、これに先立ち、平成13年10月～21年4月まで募集が停止されていました。なお、入居者の募集は平成21年10月から再開されています。

一方、地域の高齢化は一段と進行し、孤立死などの問題がクローズアップされており、地域の取組が進められています。



○地区内の自治会町内会：4

統計データから見たかちだ地区

※統計データは勝田団地を含む勝田町全体

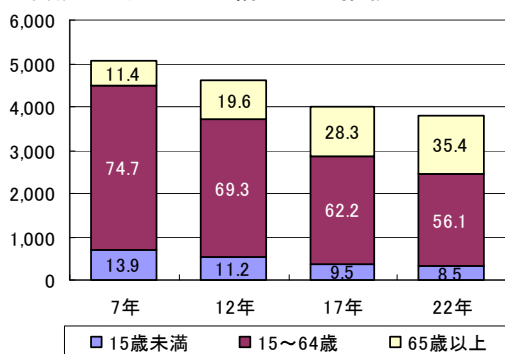
勝田団地の住戸数は1,534戸ですが、現在、住戸改善事業のため入居しているのは約1,200戸です。勝田町全体の世帯数は約2,000世帯で推移しているため、6～7割程度が勝田団地の世帯といえます。

勝田町の人口は減少が続いています。特にここ15年の間に20歳代前後を中心とする若い世代の転出が進んでいます。また、1世帯あたりの人口は2.5人から1.9人に減少しています。一方、老年人口割合は35.4%と、15年間で24ポイント増加しました。これらの統計から、一人暮らし高齢者が多いことがうかがえます。

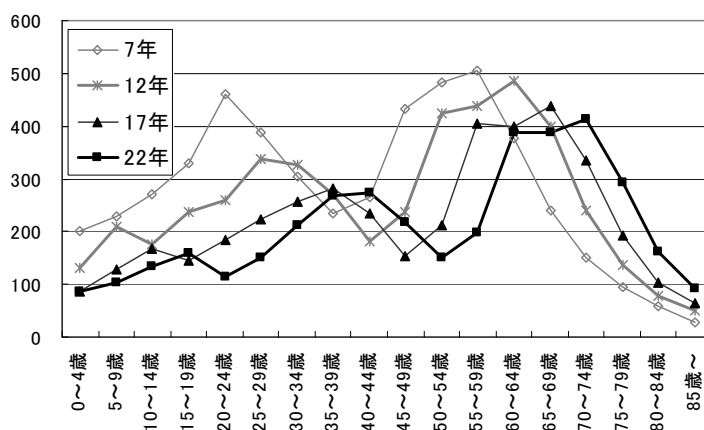
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	5,058	4,617	4,011	3,804
世帯数	2,041	2,116	1,975	2,009
平均年齢	40.1	44.8	48.5	51.2

○年齢3区分別人口構成比の推移



○5歳階級別人口の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 世代を超えて出会う機会を増やし、交流を深めよう！

継続

夏の盆踊り、防災訓練、勝田小学校でのふれあい清掃などに子どもから高齢者までが参加して交流を行っています。また、「ふれあい昼食会せせらぎ」に勝田小学校の子どもたちが毎回ボランティアとして参加したり、ふれあい清掃や登下校の見守り、防犯パトロールなどでは高齢者が勝田小学校や通学路で子どもたちとの交流をしています。

日常生活の中では子どもたちと交流する機会が少ないので、行事や活動をとおして、交流を進めています。地域懇談会の中では、「一人暮らしの男性は誘ってもなかなか出てこない。」「どうしたら外に出てくれるかわからない。」などの課題が毎年挙げられています。

目標2 階段ごとの見守りを充実させよう！

第2期
計画の
目標2へ

継続



※階段委員とは同じ階段を利用する住民の見守りをする役員のことです。

階段委員[※]になることで、見守りをしようと心がけるようになっていますが、高齢で階段委員を引き受けられない人も出てきており、できる人が限られてきています。回覧板や掲示板だけでなく、直接顔を合わせて声をかけたり話をしたりして、様々な活動に誘ったり情報を伝えています。「階段ごとの見守り」は、平成20年度から取り組んでいる「かちだ地区おもしろネットワーク事業」の中でも重要な活動として成果があがっていますので、「かちだ地区おもしろネットワークを充実していこう」という目標の中で引き続き取り組んでいきます。

目標3 行政や専門家と一緒に、話し合い、新しい知識を生み出していこう！

第2期
計画の
目標2へ

継続

地域懇談会を年に1回、支えあい連絡会を年に3回開催し、地域の課題などについて行政や地域ケアプラザ、都筑区社会福祉協議会と一緒に解決に向けた話し合いをしています。

平成20年度より「かちだ地区おもしろネットワーク連絡会」を設け、町ぐるみで地域の見守り活動を行っています。

地域と区役所、区社会福祉協議会、新栄地域ケアプラザや福祉・保健の専門家とが課題解決に向けた話し合いを定期的に持つようになりました。このため、「かちだ地区おもしろネットワークを充実していこう」という目標の中で取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

自治会・老人会・民生委員児童委員・地域のボランティアなどによる活動が継続して開催されていますが、参加者が固定化している、新たな参加者が少ないという課題が地域懇談会で出されているため、参加者や活動している人が話し合いながら現在行っている活動を充実していく必要があります。

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある。」など、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちな方などの要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、懇談会の中や各町内会でも話し合われ取組が進んでいます。また、福祉についての取組や活動をしていこうなどの意見が出ています。

新規

新規

かちだ地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の人々が出会う機会を増やし交流していこう！

現状と課題

高齢化が進み子どもが少なくなってきましたが、住戸改善事業の終了により、転入者が増えています。また、5年間の取組で「引きこもりがちな人との交流が課題」という声があがっています。日頃からの顔の見える関係づくりを進め、交流を深めていく必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇お祭り・ふれあい清掃・登下校見守りパトロールなどの行事や活動を継続し、交流を深めていこう。
- ◇行事や活動の情報がたくさんの人に届き、参加してくれるような仕組みを考えよう。
- ◇男性が参加しやすい活動を工夫していこう。
- ◇積極的に大人からあいさつをしていく町にしていこう。
- ◇子どもを巻き込んだ活動や行事にしていこう。
- ◇行事や活動などの町の情報がたくさんの人に届くようにしていこう。



目標2 かちだ地区おもいやりネットワークを充実していこう！

現状と課題

10人に4人は65歳以上の高齢者です。また、65歳以上のひとり暮らし高齢者は29%と高いため、地域全体で見守りについての取組「かちだ地区おもいやりネットワーク」事業（以下、おもいやりネットワークという。）を引き続き充実していくことが必要です。



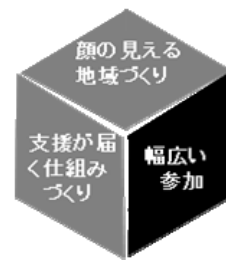
これからこんなことに取り組みます！

- ◇おもいやりネットワークのPRを進めよう。
- ◇おもいやりネットワークを進めるための場や研修会を開催していこう。
- ◇緊急連絡先カード、あんしんカード、ライト運動、太極拳やサロンひだまり、ボランティア活動などのおもいやりネットワークの取組を充実していこう。

目標3 現在行っている活動を、充実していこう！

現状と課題

自治会・老人会・民生委員児童委員などによる地域の活動が継続的に開催されています。参加者の固定化や、担い手不足という課題を検討し、充実していく必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

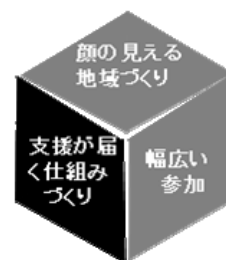
- ◇現在行っている昼食会やサロンなどの活動の案内状を作ったり、直接声をかけるなど、PRを進めていこう。
- ◇中学生の力を活かしていくなど、学校と話し合いながら活動を考えていこう。
- ◇いろいろな団体や自治会の活動の情報交換をしながら、お互いの活動を充実していこう。



目標4 支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

災害時に子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちな方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて進めていくことが必要です。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域の中にいる要援護者や閉じこもりがちな方への支援を民生委員児童委員と一緒に地域全体で行っていこう。
- ◇地域の高齢者・障害者・子ども関係の施設や関係者と一緒に話し合いをしながら進めていこう。
- ◇災害時の助け合いの仕組みづくりを進め、その取組を地域の人たちに伝えていこう。



新栄早渕地区 新栄町、早渕一～三丁目

地区の概況

仲町台駅と東山田駅の間に南北に伸びる地域です。大半が港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域で、新栄町は昭和63年に新羽町から、早渕一～三丁目は平成6年の分区と同時に新吉田町、勝田町、大榎町、南山田町から分かれました。早渕三丁目の北東側は開発以前の町並みを残しています。

地域の中央を大熊東山田線が通り、さらに東側には第三京浜道路と都筑インターチェンジがあります。大熊東山田線の西は主に戸建住宅とマンションからなる住宅地ですが、企業の研究所なども立地しています。以前の斜面緑地や小川は公園と緑道に整備され、これに歩行者・自転車専用道路が連なっています。また、平成22年4月には早渕中学校が開校しました。

一方、大熊東山田線の東は主に店舗や工場、事業所が並んでいます。



- 地区内の自治会町内会 : 7
- 地区内にある公共施設 : 新栄地域ケアプラザ
- 地区内にある公立小中学校 : 早渕中学校

統計データから見た新栄早渕地区

地域全体の人口はゆるやかな増加傾向ですが、仲町台駅に近い早渕一丁目では平成12年に、東山田駅に近い早渕三丁目では平成17年に、急激な人口の増加がありました。同様に新栄町でも近年著しい人口の伸びが見られます。

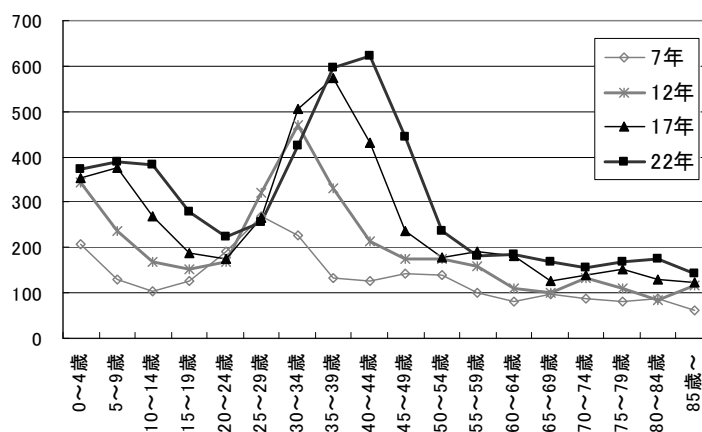
全体的に若い世代が多い地域で、地域全体の年少人口割合21.2%は区内最高であり、早渕二丁目では28.0%に達します。一方、老年人口割合は15.0%ですが、高齢者向けマンションがある新栄町では39.0%となっています。

1世帯当たりの人口は地域全体では2.4人ですが、新栄町では1.8人、早渕二丁目では3.0人となっています。

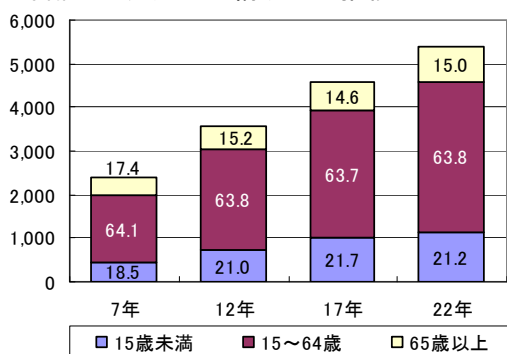
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	2,384	3,564	4,596	5,401
世帯数	947	1,448	1,886	2,230
平均年齢	38.1	37.1	37.6	38.2

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 地域で人と人がつながるネットワークをつくろう！

継続

夕涼み会、カレーパーティ、たけのこ掘り、流しそうめん、グラウンドゴルフ、町内清掃などの行事や活動などをきっかけに交流の輪が広がっていたり、犬の散歩や、子どもの下校時や防犯パトロールなどで日常的に関係づくりができるような活動を行っています。また、子どもがいる家庭では自治会町内会の加入や子ども会への参加が交流の機会となっています。

情報の共有化のため、新栄早瀬地区の「暮らしの便利帳」を作成・配布したり、ゴミ置き場の掲示板にかわら版を設置して活動や最近のトピックスなど、近隣の人に情報を提供しています。

このような取組成果があげられていますが、参加する人が決まっている、役員のなり手がいない、どこにどんな人が住んでいるのか見えにくいなどの課題も毎年挙げられていることから、引き続き目標1に取り組んでいきます。



目標2 地域での子育て支援を充実しよう！

継続

夕涼み会、カレーパーティ、ラジオ体操、たけのこ掘り、流しそうめん、グラウンドゴルフ、町内清掃、老人会との交流の場の開催など大人と子どもが交流する場が増えました。

また、子どもと親が参加する「火の用心パトロール」や、登下校の見守り・パトロールで顔見知りが増えています。

保健活動推進員がリトミックを企画・開催したり、地域ケアプラザの「つくしんぼサロン」（子育て支援）に参加しています。

このように交流する場は増えてきていますが、「自治会町内会に入っていない子どもたちに情報が届きにくい。」や「お膳立てしないと参加しない・できない若い世代が多い。」などの意見も挙がっています。若い世代の転入も多い町という現状から、引き続き目標2に取り組んでいきます。



目標3 思いやりの関係づくりを進めよう！

第2期計画の目標3へ

継続

支えあい連絡会を年に3回開催して地域の課題と課題解決のための話し合いをしています。その中で、聴覚障害の人とコミュニケーションをとるためのコミュニケーションボードを活用しました。

コンビニエンスストアが見守りや、清掃活動、お祭りへの協力など地域の一員として地域のつながりを大切に活動を行っています。

支えあい連絡会で地域の福祉保健の課題を話し合い、「暮らしの便利帳」を作成し、情報提供したり、災害時に要援護者を支援していくための話し合いを行っています。今後は、一歩進んで幅広く支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりと合わせて「思いやりの関係づくり」を進めていきます。



★ 2期計画に向けた新たな目標★

新規

「地域のどこに支援が必要な人がいるのかわからない、災害があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある」などの意見があり、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、懇談会や各町内会でも話し合われ取組が進んでいます。また、福祉についての取組みや活動をしていこうなどの意見が出ています。

新栄早淵地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域で人と人がつながるネットワークをつくろう！

現状と課題

転出入が多いため、つながりづくりのためには地域で行っている行事や活動がきっかけになります。また、災害時の取組についても日頃からの近所付き合いが大切です。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇自治会町内会に加入する人が増えるような取組を行政と一緒に進めていこう。
- ◇子ども会と一緒に活動をして、たくさんの人に参加してもらおう。
- ◇学校と一緒に清掃活動や防災訓練などを行い、いろいろな人に参加してもらおう。
- ◇防犯パトロールなど、日常的な見守りをしていこう。
- ◇「まちの情報誌」（暮らしの便利帳）の更新をし、新しい情報を提供していこう。

目標2 地域の子育て支援を充実しよう！

現状と課題

子どもたちへの支援として子ども会、夕涼み会、ラジオ体操、下校時パトロールなどの行事や活動を行っています。若い世代の課題として「自治会町内会に入っていない子どもたちに情報が届きにくい。」や「お膳立てをしないと参加しない・できない若い世代が多い。」などがあります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇夕涼み会やカレーパーティ、たけのこ堀りなどを行うときに企画の段階から子どもたちに入ってもらい、役割を担ってもらおう。
- ◇子ども会と自治会町内会・学校と一緒に活動をして、いろいろな人に参加してもらい交流を進めていこう。
- ◇小さい子どもがいる時期から地域活動に気軽に参加してもらい、自治会町内会のことを知ってもらおう。



目標3 支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりについて 取り組もう！

現状と課題

子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちな方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて検討し取り組んでいく必要があります。



これからこんなことに 取り組みます！

- ◇自治会町内会が行っている活動を自治会町内会の加入にかかわらず支援していく仕組みを考えていこう。
- ◇自治会町内会で災害時要援護者支援についての勉強会や話し合いを定期的で開催していこう。
- ◇要援護者への具体的な支援について「支えあい連絡会」の中で話し合い、実践していこう。
- ◇民生委員児童委員・保健活動推進員などの活動者のPRをしていこう。
- ◇災害時に要援護者を助けるためのボランティアを集めよう。
- ◇コミュニケーションボードを応用した三角巾を作成するなど、障害者とコミュニケーションをとる方法などについて検討していこう。
- ◇地域の拠点のひとつとしてコンビニエンスストアとの協力体制を継続していこう。
- ◇中学生や子どもたちも参加できるような地域活動について、学校と一緒に考えていこう。



都田地区 大熊町、折本町、川向町、桜並木、長坂、仲町台一～五丁目、 東方町、平台

地区の概況

地域の北部は港北ニュータウンで計画的なまちづくりがされた地域で、仲町台駅周辺は商業施設等が集まるほか、地区センターがあり、歩行者自転車専用道路、緑道・公園が整備されています。東西に横断する新横浜元石川線及びブルーラインの高架に沿い、商業・業務施設と集合住宅が並び、その外側は低層住宅が中心となっています。また、大熊川～東方天満宮と港北ニュータウンに挟まれる台地及び大熊町は農業専用地区に指定されており、ほうれん草や小松菜など都筑野菜の生産が盛んです。

中部の都筑スポーツセンターから長福寺南側交差点に至る市道沿いは宅地や業務施設、農地が混在しています。

川崎町田線沿いは第三京浜道路の港北インターに近く、大きな工場・倉庫等が多い地域です。また、川向町の鶴見川沿いは農地となっています。



- 地区内の自治会町内会 : 8
- 地区内にある公共施設 : 仲町台地区センター
- 地区内にある公立小中学校 : 折本小学校

統計データから見た都田地区

平成元年の都田地区の人口は9,000人弱で、港北ニュータウンの供用開始とともに人口が増加し、平成22年に20,000人を超えました。ニュータウン供用開始時点では30歳代前半に人口のピークがありましたが、徐々に転出し、その後には30歳台前後のより若い世代が転入する傾向が見られます。

一方、ニュータウン開発がなされなかった地域では人口は横ばいで、人口のピークは60歳代前半及び40歳前後となっています。

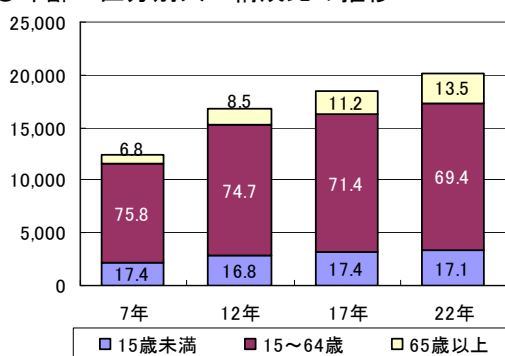
老年人口割合はニュータウン開発地域内では10%弱、開発地域外及び高齢者住宅のある仲町台五丁目では20%前後となっており、都田地区全体では13.5%です。年少人口割合は平成20年に大規模マンションが建設された仲町台三丁目の24.2%を最高に、ニュータウン内では20%前後、全体では17.1%となっています。

1世帯当たり人口は仲町台駅前の一丁目が1.9人と最小で、事業所の多い川向町及び高齢者住宅のある仲町台五丁目で2.1人、一方、平台、桜並木、長坂では2.8人と高く、全体では2.3人となっています。

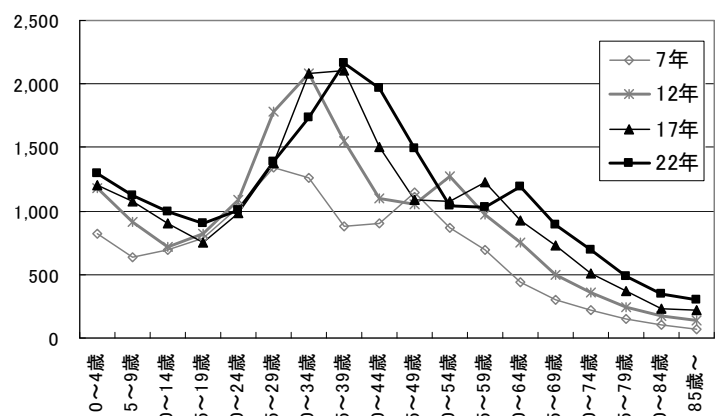
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	12,354	16,720	18,378	20,062
世帯数	4,558	6,727	7,570	8,575
平均年齢	34.9	36.1	37.8	39.1

○年齢3区分別人口構成比の推移



○5歳階級別人口の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 住民同士の声かけをして地域のネットワークをつくろう！

継続

ほのぼの健康教室、ふれあい会、スポーツフェスティバル、芋ほり、ハロウィンなど、様々な年代を対象とした活動を行っています。

これらの活動をとおした地域のネットワークづくりは着実に進んでいますが、隣近所でも顔を合わせることがない、町内会の役員になるまで、地域のことを知らなかった、といった課題があげられています。

また、地域の行事や日頃から行われている活動をとおして交流を深め、地域のネットワークづくりを行うことが必要とされていることから、「目標3 地域の行事にみんなで参加して交流しよう！」と合わせて一つの目標として、引き続き目標1に取り組んでいきます。



目標2 各団体の横のつながりを持ち、協力しあおう！

継続

活動団体同士の交流会が開催され、今後もこのような機会が続いていくことが望まれます。また、様々な団体があり、それぞれが活発に活動していますが、活動の参加者や担い手が固定化している、若い世代が活動に参加してほしいという意見が毎年出ています。そのため、それぞれの団体の活動が活性化されることが望まれています。

今後、活動団体同士の交流だけでなく、地域の活動全体が活性化するよう、「ボランティアたうん都田をすすめよう！」という目標として、引き続き取り組んでいきます。

目標3 地域の行事にみんなで参加して交流しよう！

継続

老人クラブが地域の小学校と交流を行ったり、スポーツフェスティバル、芋ほり、ハロウィンなど異世代交流となる行事も盛んに行われています。

また、行事だけではなく、日頃から行われている活動も含めて地域の住民の交流を行って地域のネットワークづくりをすすめるために「目標1 住民同士の声かけをして地域のネットワークをつくろう！」と合わせて一つの目標として、引き続き取り組んでいきます。



目標2へ

目標4 地場野菜を活かして健康づくりをすすめよう！

継続

大熊にこここ市、芋ほり大会や小学校でのじゃがいもほりなどの野菜に関わる行事が開催されています。

また、介護予防や食育、住民の交流にも地域の野菜を生かそうという意見が出ていることから、この目標は引き続き取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

新規

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害時があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある。」など、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、地域懇談会の中や各町内会でも話し合わせ取組が進んでいます。また、福祉についての取組や活動をしていこうなどの意見が出ています。

都田地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の活動にみんなで参加して交流し、地域でのネットワークをつくろう！

現状と課題

「昔から住んでいる人同士はつながりがある。結束力が強い。」という意見がある一方、「町内会費の集金やゴミ出しくらいでしか顔を合わせることがない人もいる。」「町内会の役員をやるまで隣近所を知らなかった。」というつながりが少ない現状もあります。

また、「若い人に行事に参加してほしい。」「高齢者と子どもが一緒に出来る行事を開催したい。」など、活動を通じた様々な世代の交流が望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇コミュニケーションが大切なので積極的にあいさつをしよう。
- ◇身近な地域での小さなつながりを地域全体のネットワークへ広げよう。
- ◇それぞれの興味に合わせて、行事や活動グループを増やしていこう。
- ◇持ち回りでも役員をやることで、地域に関心を持つきっかけにしよう。
- ◇子どもたちをターゲットにした行事を開催することで大人にも参加してもらおう。
- ◇小・中学校と地域の情報交換を行っていこう。



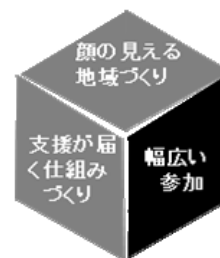
目標2 ボランティアたうん都田をすすめよう！

現状と課題

「いろいろな団体に情報を提供した方が良い。」「活動の担い手が増えると良い。」といった活動団体の活性化や、団体同士の交流が望まれています。

これからこんなことに取り組みます！

- ◇担い手を開拓するためにも、小・中学校や老人会、子ども会などの各種団体や学校に声かけをして、もっと情報をPRしよう。
- ◇行事で活躍する特技を持つ人を、他の町にも派遣しよう。
- ◇毎年、活動団体内の役割を交代して受け持つことによって、地域の活動の担い手を育成しよう。
- ◇それぞれの得意分野を生かしてつながりを広げよう。
- ◇災害時要援護者支援事業を通じて、町内会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会などの地域の団体が連携していこう。



目標3 地場野菜を生かして健康づくりをすすめよう！

現状と課題

「畑の貸し出しを行っている。」「子どもが野菜に触れ合うことで、野菜の育つ過程を身近に感じてほしい。」など、都田地区ならではの、野菜を通じた取組がこれからも継続されることが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇都筑野菜づくりを通じたふれあい・異世代交流・介護予防を進めていこう。
- ◇行事を通じて都筑野菜の調理の仕方や食べ方などを学ぶ機会を作り、都筑野菜を身近に感じてもらおう。
- ◇活動の企画を小・中学生や地域ケアプラザ・区役所も含めみんなで考えていこう。
- ◇都筑野菜づくりの中で担い手づくりを行っていこう。
- ◇現在行われている野菜を使った取組をもっとPRしていこう。

目標4 必要な人に支援を届ける仕組みづくりをすすめよう！

現状と課題

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある。」など、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、地域懇談会の中や各町内会でも話し合われ、取組が進んでいます。また、「日頃から、地域と支援が必要な人とのつながりが大切である。」などの意見が出ていることから、必要な人に支援を届ける取組を進めることが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇災害時要援護者支援の取組を継続して行っていこう。
- ◇グループホームも含めて、日頃から地域と支援が必要な人とのつながりをつくろう。
- ◇高齢者や子育ての支援は、各団体が、日頃から関わりあって行っていこう。
- ◇子どもが地域で育つ意識を持ち、これからの都田地区を支えてもらうためにも、高齢者と小・中学校の交流を続けよう。
- ◇高齢者や障害者に向けて、字が大きく、分かりやすい書類作りを行おう。

池辺地区 池辺町

地区の概況

南部は緑産業道路及び横浜上麻生線沿いに事業所や工場が多く所在していますが、近年、工場が移転し、その跡にマンション等が建設される事例があります。特に地域最大の事業所の移転後、跡地に大規模な商業施設とマンションが建設されました。一方、鶴見川沿いの川内周辺は古くからの住宅地となっています。

中部は戸建を中心とする低層の住宅地が主体です。古くから宅地として利用されており、寺社仏閣や小中学校があります。その背後の北側には、鶴見川北岸の斜面緑地が広がり、間に宅地を挟みながら果樹園や竹林など緑地が続いています。また、道路沿いには高齢者向け入所施設や事業所が点在しています。

北部は都市農業の確立と都市環境保全を目的とする農業専用地区に指定されています。



- 地区内の自治会町内会 : 10
- 地区内にある公共施設 : 都田小学校コミュニティハウス
- 地区内にある公立小中学校 : 都田小学校、都田西小学校、都田中学校

統計データから見た池辺地区

池辺地区の人口は昭和50年代後半以降、約9,000人前後で推移していましたが、平成12年のマンション建設で約9,500人に、さらに事業所の跡地に大規模な商業施設とマンションが建設された平成20年には約12,000人となりました。

5歳階級別人口の推移では、平成20年のマンション建設に伴う30～40代及び0～4歳の増加が顕著ですが、40歳台以降の人口の動きは少なく、老年人口は漸増傾向です。

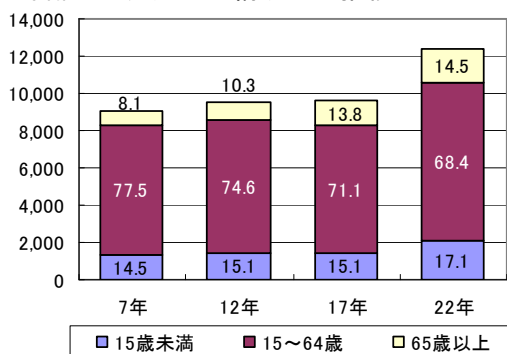
大規模マンションの建設により、ここ5年間で年少人口割合は15.1%から17.1%と2.0ポイント増加し、老年人口割合は13.8%から14.5%へと0.6ポイントの増加にとどまりました。

1世帯当たりの人口は区内平均を下回る2.3人となっています。

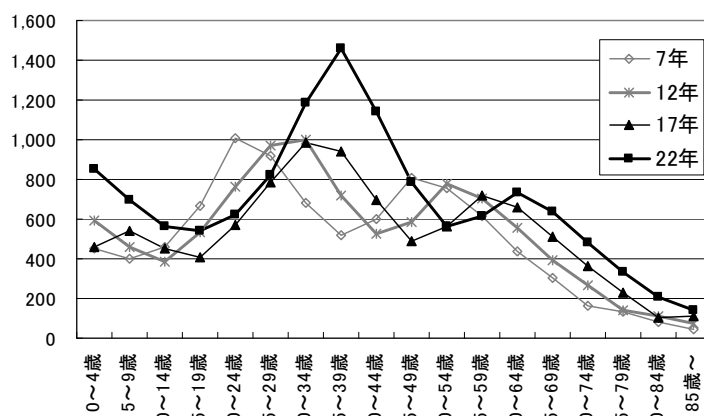
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	9,044	9,539	9,590	12,379
世帯数	3,597	3,950	4,163	5,374
平均年齢	36.5	37.7	39.8	39.0

○年齢3区分別人口構成比の推移



○5歳階級別人口の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

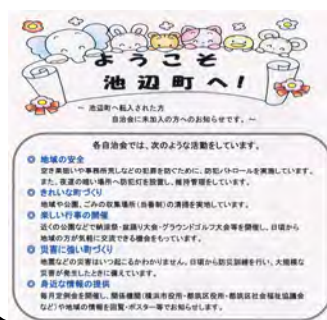
目標1 地域の活動を一步一步進めていこう！



どんど焼き、健民祭、盆踊り、歩け大会など幅広い世代が参加できるさまざまな行事の開催や、地域の各団体、小・中学校・大学等が連携し、「公園で遊ぼう」、子育て講演会の開催、せせらぎ緑道の整備など、子どもたちが参加できるさまざまな機会をつくりながら、団体が連携しあっています。

これらの活動を通したつながりづくりは着実に進んでいますが、近年大型マンションができるなど新しく移り住む人が増え、自治会未加入者が増加していること等により、つながりづくりが難しいという課題があります。また、今後も地域で活動している様々な人、幅広い団体が連携、情報共有する場づくりを進め、災害時に助け合っていくためにも、行事などを通じた顔の見える関係づくりは大切という意見が多くあるので、目標1を「地域の活動を一步一步進めて、顔の見える関係を広げていこう！」として、引き続き取り組んでいきます。

目標2 地域の活動をみんなにPRし、担い手を増やそう！



地域情報誌「ほっと情報誌」の作成・配布などで地域活動のPRをすすめるとともに、未加入者や若い世代も気軽に参加できる行事を実施して、地域活動の楽しさや魅力を伝えながら、活動に参加した若い世代に担い手になってもらう工夫をしていますが、参加者の固定化、担い手不足、高齢化などの課題があります。これからも様々な人に地域活動に参加してもらうためにも、引き続き目標2に取り組んでいきます。

目標3 あいさつをとおして、顔の見える関係づくりをすすめます！



あいさつ通りをつくり、そこでは自然とあいさつをするなど、誰もがあいさつを続けられる工夫をしていますが、新しく移り住んできた人との関係づくりや同じ町に住んでいながら顔が見えにくい地域、そして子どもたちとの関係づくりなど、今後も取り組んでいくことが望まれています。

第2期計画では、目標1を顔の見える関係づくりを重視した「地域の活動を一步一步進めて、顔の見える関係を広げていこう！」とするため、目標3の趣旨は、引き続き目標1に組み入れ、取り組んでいきます。

目標1へ

★2期計画に向けた新たな目標★

- ・「乳幼児のいる親は居場所を必要としている。」、「公園に行くまでの安全や不審者対策が不十分。」、「子どもたちの縦のつながりが弱くなってきている。」、「中学生に日頃から声をかけ、つながっていることが大事。」「中学生以上の子どもたちに居場所がないのが困る。」、など、乳幼児の子育て支援から青少年の健全育成まで、地域で子どもたちが健やかに育つための取組が望まれています。
- ・「災害時に備え、防災無線を誰もが使えるようにしておく必要がある。」、「元気だった方が寝込むのも早い。」、「一人暮らしで病弱な方、老々介護でいつ介護できなくなるかという家庭がある。」、「高齢者の見守り体制が必要。」など、災害時の助け合いの体制の強化や、高齢者をはじめとした支援が必要な人への支援が望まれています。



池辺地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の活動を一步一步進めて、顔の見える関係を広げていこう！

現状と課題

近年大型マンションができるなど新しく移り住む人が増え、また自治会未加入者の増加等により、つながりづくりが難しいなどの課題があります。



これからこんなことに取り組みます！

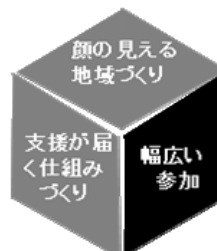


- ◇子どもが参加できる行事や子ども会などを通じて、自治会未加入者との顔の見える関係をつくりながら、自治会の良さを知ってもらおう。
- ◇自治会館を有効活用して、子どもから高齢者までの居場所づくりを進めよう。
- ◇小さい単位で、気楽に集まれる機会をつくり、つながりづくりをしていこう。
- ◇それぞれの活動が連携し、情報を共有していこう。
- ◇目に付きやすいものであいさつをPRしたり、あいさつ通りを増やすなど、あいさつを進めていこう。

目標2 地域の活動をみんなにPRし、担い手を増やそう！

現状と課題

様々な行事や活動で参加の機会をつくり、担い手の育成を進めています。参加者の固定化、担い手不足、高齢化などの課題があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇現在行っている行事を工夫したり、出てこられない人が出てきやすくなるために時間や場所の工夫をするなどして、参加を増やしていこう。
- ◇趣味のグループを地域で広げ、幅広い世代、活動のきっかけをつくろう。
- ◇青少年指導員、体育指導委員、子ども会など、若い世代が活躍する活動を知ってもらい、次世代の担い手を増やしていこう。
- ◇現在行っている地域活動を、写真などを活用してPRしていこう。
- ◇自治会や地域情報は、目につきやすいポスター、子どもの書いた絵の起用、全戸配布、広報車などの工夫をしてPRしていこう。

目標3 子どもたちが健やかに育つ環境づくりを進めよう！

現状と課題

「乳幼児のいる親は居場所を必要としている。」、「公園に行くまでの安全や不審者対策が不十分。」、「子どもたちの縦のつながりが弱くなってきている。」、「中学生に日頃から声をかけ、つながっていることが大事。」、「中学生以上の子どもたちに居場所がないのが困る。」など、乳幼児の子育て支援から青少年の健全育成まで、地域で子どもたちが健やかに育つための取組が望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

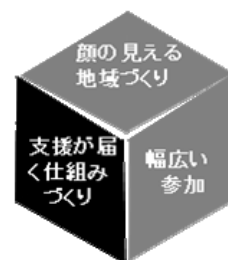
- ◇大人から子どもへ積極的にあいさつ、声かけをしていこう。
- ◇小中学生に祭りやボランティアなどに参加してもらったり、小中学生の居場所づくりを行うなど、関係をつくって見守っていこう。
- ◇子どもと高齢者の異世代交流をもっと進めよう。
- ◇地域と学校の交流、連携をもっと深めよう。
- ◇大人の見守り、パトロール、情報共有、すぐにかげこめる「こども110番の家」の強化など、子どもの安全を見守っていこう。
- ◇乳幼児のいる親の居場所や交流の場づくりを進めていこう。



目標4 高齢者、障害者など支援が必要な人に支援を届ける仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「災害時に備え、防災無線を誰もが使えるようにしておく必要がある。」、「元気だった方が寝込むのも早い。」、「一人暮らしで病弱な方、老々介護でいつ介護できなくなるかという家庭がある。」、「高齢者の見守り体制が必要。」など、災害時の助け合いの体制の強化や、高齢者をはじめとした支援が必要な人への支援が望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇災害時の助け合いのために、様々なイベントでのつながりづくり、防災無線のPR、学校・企業等との協力、高齢者も含めた支援体制の強化などを進めていこう。
- ◇老人会と連携したり、地域で気軽に集まれる場づくりをするなど高齢者の元気づくりを進めよう。
- ◇小さな和・輪をつくり、一人暮らしの高齢者などの見守りをしていこう。
- ◇民生委員児童委員など地域の活動者の存在をもっと知ってもらおう。



佐江戸加賀原地区 佐江戸町、加賀原一・二丁目

地区の概況

加賀原一丁目、二丁目は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。大半が住宅地で、低層の住宅と中高層の住宅、さらに企業の事業所や公園が区域を分けられ整然と配置されています。

佐江戸町は中原街道沿いが古くから宅地となっており、背後の斜面緑地には寺社仏閣や新たに建設されたマンションなどが立地しています。その上の台地は農業専用地区に指定されており、耕地整理がなされています。一方、緑産業道路・鶴見川沿いは工業地帯となっており、大小の事業所や水再生センターが立地しています。かつて農業用水として利用されていた江川は、水再生センターから放流される高度処理水を利用して、せせらぎ緑道として整備されています。



- 地区内の自治会町内会：6
- 地区内にある公共施設：加賀原地域ケアプラザ

統計データから見た佐江戸加賀原地区

佐江戸加賀原地区の人口は、平成20年の事業所の移転と跡地へのマンション建設などで、平成19年から21年にかけて約1,000人の増加があったほかは、ニュータウン開発が一段落した平成6年以降、ゆるやかな増加傾向です。

5歳階級別人口の推移では、佐江戸町での社宅の廃止による20歳台後半の減少、また、加賀原二丁目などのマンション建設による30歳台及びその子どもを中心とする増加が見られます。

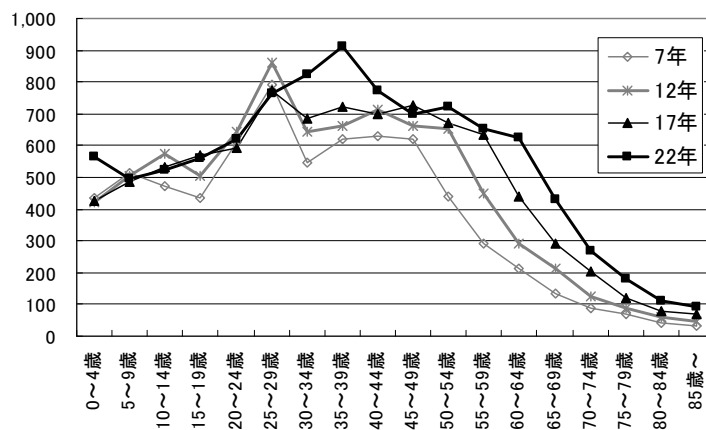
人口の増加にかかわらず年少人口は約1,500人と一定で、現在の年少人口割合は16.2%となっています。一方、老年人口は約1,100、老年人口割合は11.0%でいずれも漸増傾向です

1世帯当たりの人口は佐江戸町で低く、2.3人です。加賀原では2.8~2.9人で、地域全体では2.5人となっています。

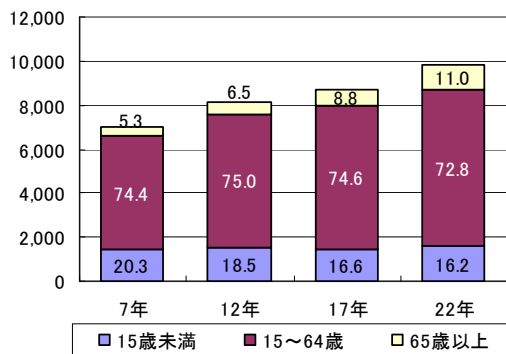
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	6,981	8,119	8,726	9,810
世帯数	2,764	3,095	3,372	3,856
平均年齢	33.1	35.0	37.3	38.4

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 地域の人々が集まる場などを活用して、ふれあう機会を増やそう！

継続

新しく移り住んできた人も気軽に集える隣人祭を開催したり、盆踊り、健民祭、3世代交流、蛍の宴など幅広い年代の子どもたちが参加できる行事を行っています。

これらの活動を通じた顔の見える関係づくりが進んでいますが、「10代後半～30代前半の若い世代の参加や子育て世代の活動が少ない」、「子どもと高齢者の交流や異世代交流を進めていきたい。」などの意見や、「人と人がつながることが少なくなった」、「隣近所との付き合いはあまりない」、「災害時は向こう三軒両隣の助け合いが最も大切。」など、近隣同士のつながりづくりを望む意見があるため、引き続き目標1に取り組んでいきます。



目標2 地域の中で人々が活躍する場をつくろう！

継続

ふれあいサロン、すくすくサロンなど若い世代が参加する場で、地域活動を紹介し、参加を呼びかけています。また、熟年層が伝承遊びを子どもたちに教えたり、自治会町内会の役員などが交代後も積極的に行事に参加するなど、幅広い担い手が活躍しています。



これらのように様々な工夫を行っていますが、「現役で働いている若い世代は仕事との両立が厳しい」、「若い世代との交流や担い手の育成が必要」、「子育てが終った世代など幅広く人々が活躍できる場づくりが必要。」などの意見があり、今後も様々な人に地域活動に参加してもらうために、目標2は引き続き取り組んでいきます。

目標3 地域の情報をわかりやすく伝える工夫をしよう！

継続

佐江戸加賀原支えあい連絡会を隔月で開催し、約50の団体・個人が行事や活動状況について、情報を共有し、PRしています。また転入者には、訪問して、自治会の会則、地図、地域の情報を渡したり、町の行事予定表をつくり、町の人に届けるとともに、ケアプラザにも置いて誰でも見られるようにしています。

これらの様々な工夫に取り組んできましたが、「転入して間もないと、外の情報が分からない」、「自治会町内会未加入者は必要な情報や関わりが届かない。」などの課題があり、これからも引き続き目標3に取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

新規

災害時要援護者支援の取組が進んでいますが、「支援が必要な人がどこにいるのか分からない」、「災害時は向こう三軒両隣の助け合いが最も大切」、「要援護者が声を出せる支援体制が必要」など、今後も災害時の助け合いの体制を進めていくことが望まれています。また、「日々の生活の中でちょっとした手助けが欲しい」、「ボランティアの育成が大切」、「ちょっとした困りごと等を相談でき、ボランティアにつなぐ身近な拠点づくりが必要。」など、ちょっとした困りごと等を相談でき、ボランティアにつなぐ身近な拠点づくりが望まれています。

佐江戸加賀原地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の人々が集まる場などを活用して、ふれあう機会を増やそう！

現状と課題

「人と人がつながることが少なくなった。」「隣近所との付き合いはあまりない。」「災害時は向こう三軒両隣の助け合いが最も大事。」など、近隣同士のつながりづくりが望まれています。

また、「子どもと高齢者の交流や異世代交流はとても良い、進めていきたい。」との声や「10代後半～30代前半の若い世代や親の、活動への参加が少ない。」といった現状があります。



これからこんなことに取り組みます！



- ◇隣人祭りを充実して、隣近所の顔の見える関係づくりを進めていこう。
- ◇伝承遊びや環境、福祉などについて子どもたちに伝えたり、子ども会、老人会など、会の垣根を振り払って、異世代で交流していこう。
- ◇行事や自治会の会合などを通じて「顔の見える関係づくり」をPRしていこう。
- ◇地域の福祉施設での福祉用具の貸し出し、学校での空き教室の活用、消防署のフェアでの地域側の出店などを通じて、顔の見える関係をつくっていこう。

目標2 地域の中で人々が活躍する場をつくろう！

現状と課題

「現役で働いている若い世代は仕事と地域活動の両立が厳しい。」「若い世代との交流や担い手の育成が必要。」「子育てが終わった世代など幅広く人々が活躍できる場づくりが必要。」など、今後も、様々な人に地域活動に参加してもらうための工夫や場づくりが必要となっています。



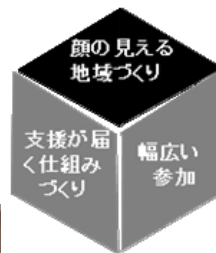
これからこんなことに取り組みます！

- ◇役員等、活動の経験者がOB、OGとして、できることを自己申告して引き続き活動に参加するなど、担い手を増やしていこう。
- ◇子ども・若い世代が参加できる場づくりや、若い父親の参加できる場づくりを進めていこう。
- ◇子ども対象の行事や活動は、子育てが終わった世代や高齢の方の知恵を活用していこう。
- ◇集会所や町内会館の活用をしていこう。
- ◇子どもたちの意見を聞きながら、行事の企画を進めよう。

目標3 地域の情報を分かりやすく伝える工夫をしよう！

現状と課題

支えあい連絡会の開催等、情報共有が進んでいますが、自治会未加入の人に情報が届きにくいなどの課題や、さらに活動への参加を増やしていくための工夫が必要となっています。



これからこんなことに取り組みます！



- ◇学校の地域掲示板や、地域ケアプラザを活用したPRなどを進めよう。
- ◇ホームページを立ち上げて地域の情報を載せていこう。
- ◇個別の声かけ、ごみ置き場での掲示、町内会を越えた掲示板での情報発信など工夫をしていこう。
- ◇チラシに子どもの好きな色や絵、キャラクターを載せるなど、子育て世代への周知を工夫していこう。

目標4 高齢者、障害者、子どもなどを支援する活動や、ちょっとしたボランティア活動など、地域の支えあいの仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

災害時要援護者支援の取組が進んでいますが、「支援が必要な人がどこにいるのか分からない」、「災害時は向こう三軒両隣の助け合いが最も大切」、「要援護者が声を出せる支援体制が必要。」など、今後も災害時の助け合いの体制を進めていくことが望まれています。



また、「日々の生活の中でちょっとした手助けが欲しい」、「ボランティアの育成が大切」、「ちょっとした困りごと等を相談でき、ボランティアにつなぐ身近な拠点づくりが必要。」など、ちょっとした困りごとを相談でき、ボランティアにつなぐ身近な拠点づくりが望まれています。

これからこんなことに取り組みます！



- ◇行政と連携しながら災害時要援護者支援の体制を継続して進め、広めていこう。
- ◇民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、保健活動推進員など、地域で活動している人・団体のPRをしていこう。
- ◇関係機関と協力しながら、障害者など支援が必要な人を支えていこう。
- ◇一人暮らし高齢者や障害者など支援が必要な人の病院への付き添いや庭の草刈りなど、ちょっとした困りごとを相談でき、ボランティアにつなぐ身近な拠点づくりを進めよう。

川和地区 川和町、川和台、二の丸

地区の概況

川和町は中央付近で横浜上麻生線と中山北山田線の幹線道路が交差し、その直上にグリーンライン川和町駅があります。川和町は1879年に都筑郡役所が置かれるなど周辺地域の政治経済の中心地となっており、このため横浜上麻生線沿線は古くから市街化が進んでいました。駅周辺は良好な農地と宅地、事業所が混在しており、耕地整理された地区を除き、細街路が入り組んでいます。一方、川和郵便局近くの川和団地は昭和45年に建設された集合住宅、北部の都筑が丘住宅は昭和50年代に造成された低層の戸建住宅です。



地下鉄川和車両基地より南側の谷本川（鶴見川）沿いは工業地域となっていますが、保育園、障害者・高齢者施設などの福祉関係施設も立地しています。

川和台及び二の丸は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。大半が低層の戸建住宅で、二の丸には事業所や水道の配水池があります。

○地区内の自治会町内会 : 6

○地区内にある公共施設 : 川和小学校コミュニティハウス

○地区内にある公立小中学校 : 川和小学校

統計データから見た川和地区

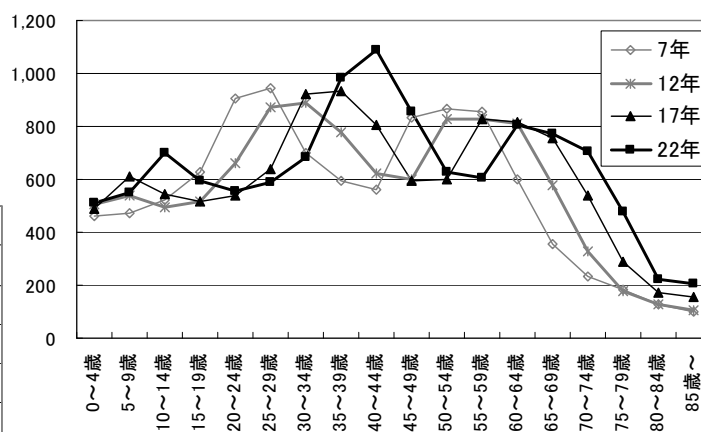
川和地区の人口はここ15年ほど10,000人前後で推移し、現在11,500人となっています。人口の増加は港北ニュータウンによる開発が行われた川和台及び二の丸が中心で、15年間でほぼ倍増となっています。川和台・二の丸とも、人口構成のピークは40歳代前半及び10歳代前半で、年少人口割合が20%を超える若い町です。一方、川和町の人口は8,000人台で推移し、人口構成の動きも少ない状況です。ここ5年間は40歳台及び10歳台で増加の傾向が見られますが、全体的には高齢化が進行し、老年人口割合は23.7%となっています。川和地区全体の年少人口割合は15.3%、老年人口割合率は20.7%です。

1世帯当たりの人口は川和町で2.3人と低く、川和台、二の丸では2.9～3.0人で、地域全体では2.4人となっています。

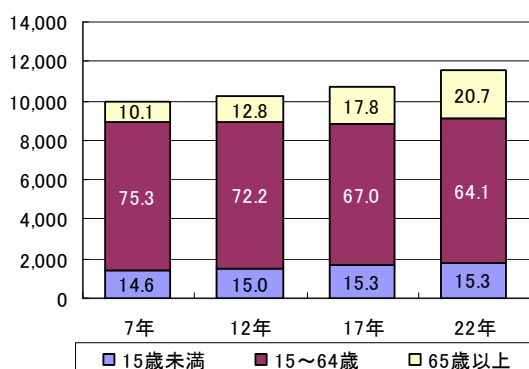
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	9,946	10,261	10,754	11,532
世帯数	3,578	3,838	4,316	4,785
平均年齢	38.6	40.0	41.8	42.8

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 自主的な活動をつなげて地域活動の輪を広げよう！

継続

サロンなどのふれあいの場づくりとともに、歩け歩け大会、夏祭りなど様々な行事が行われ、行事前に地域で活動する団体が集まる機会ができたり、転入者などが行事に参加するきっかけとなるなど、活動への参加を通じた顔の見える関係づくりが進められています。

一方、「アパートの住人の顔は見えにくい。」「転入者、自治会町内会未加入者が増加している。未加入者は地域を把握できない。」などの課題があります。

また、様々な団体は活発に活動しているが、情報交換・交流する場がなく、団体間の横のつながりが望まれています。

災害時の取組のためにも顔の見える関係づくりは大切という意見があり、今後新しく移り住む方も増えていくことが考えられるため、今までの目標の趣旨を「活動者同士の顔の見える関係づくり」という言い方で受け継ぎながら、より顔の見える関係づくりを重視した「隣近所や活動者同士の顔の見える関係づくりを進めていこう！」として、引き続き取り組んでいきます。

目標2 多様な年齢層の力を地域に還元しよう！

継続



小学校の授業、行事、登下校の見守りなどについて、地域住民をはじめ、PTA、教育ボランティア、おやじの会など多様な年齢層が幅広く活躍しています。

新しく移り住んだ人、自治会町内会未加入者や定年後の男性などが地域活動に参加するきっかけとなる、「幅広い年代が得意分野を活かせるボランティア」の募集が望まれています。

また、高齢化が進むなか、ちょっとしたボランティアの仕組みづくりや、高齢者の生きがいや元気づくりが望まれています。

そして、活動の担い手不足や参加者の減少、固定化などの課題もあり、引き続き目標2に取り組んでいきます。

目標3 地域の情報を伝える仕組みをつくっていこう！

継続

町内会だよりを発行し、町内会に加入していない家にも全戸配布するなど、情報の周知方法を工夫し、取り組んできました。

「転入したばかりで誰に声をかけていいかわからないときに、地域で情報を伝えられるといい。」「地域のホームページをつくりたい。」「回覧が多すぎ、回覧を見ない人が多い。」など、新しく移り住んだ人やより多くの人に情報を届けるための工夫についての意見や課題があり、引き続き、目標3に取り組んでいきます。

★2期計画に向けた新たな目標★

新規

「どこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害が起きたとき、平日の昼間、夜間など、さまざまな状況下でどう対応するか、確認しておく必要がある。」など、今後も災害時の助け合いの体制を進めていくことが望まれています。

また、高齢化が進むなか、「行事やサロンなどの会場に行くのも難しい高齢者がいる」、「高齢者などの見守りを進めていきたい」など、高齢者を支援する取組が望まれています。

そして、「学校に行けば子どもの姿が見えるが、地域からは見えない。」「近所に親子で遊べる場所が欲しい。」「子育てについて、親と話す機会が必要では。」など、子どもたちが健やかに育つための取組が望まれています。

川和地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりを広げよう！

現状と課題

「アパートの住人の顔は見えにくい。」「転入者、自治会未加入者が増加している。未加入世帯を把握できない。」などの課題があります。また、いろいろな団体はそれぞれ活発に活動しているが、情報交換、交流する場がなく、団体間の横のつながりが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

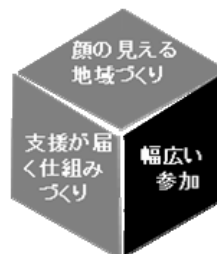


- ◇地域にある団体・組織でネットワークをつくり、情報共有を進めよう。
- ◇隣近所の人呼びかけしたり、自治会町内会のメリットをお知らせして勧誘するなど、向こう三軒両隣で顔の見える関係をつくっていこう。
- ◇グラウンドゴルフなど、幅広い世代が参加できる活動を広げ、あいさつなどからつながりづくりを進めよう。

目標2 多様な年齢層の力を地域に還元しよう！

現状と課題

多様な年齢層が活躍していますが、新しく移り住んだ人、自治会未加入者や定年後の男性なども地域活動に参加するきっかけとなる幅広い年代が得意分野を活かせるボランティアの仕組みづくりが望まれています。また、高齢化が進む中、ちょっとしたボランティアの仕組みづくりや、高齢者の生きがいや元気づくりなどが望まれています。そして、活動の担い手不足や参加者の減少、固定化といった課題があります。



これからこんなことに取り組みます！



- ◇いろいろな得意分野を活かせるボランティアや、ちょっとしたボランティアに、幅広い年代が参加できる仕組みづくりを進めよう。
- ◇子どもの頃からボランティア活動への参加を進め、将来の担い手を育てよう。
- ◇学校との協力等で、高齢者の知恵や得意分野を生かした、高齢者の元気づくりにつながる参加の場を増やそう。
- ◇自治会役員や活動経験者に、継続して活動に参加してくれるように声かけをしていこう。
- ◇役員等の良さ、やってみようというPRや、楽しくできる工夫・改善をして、担い手を増やしていこう。
- ◇新しい自治会館や施設などを拠点に活動の輪を広げよう。

目標3 地域の情報を伝える仕組みをつくっていこう！

現状と課題

地域には様々な情報がありますが、「転入したばかりで誰に声をかけていいかわからないときに、地域で情報を伝えられると良い。」「地域のホームページをつくりたい。」「回覧が多すぎ、回覧を見ない人が多い。広報の工夫、魅力的にすることが大事。」など、新しく移り住んだ人やより多くの人に情報を届けるための工夫などについての意見や課題があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇新しく移り住んだ人への情報提供や必要な情報・ほしい情報を求められたときに提供できる仕組みを検討していこう。
- ◇情報提供・PRは、全戸配布、掲示板、団体への呼びかけ、口コミ、ホームページ、地域ケアプラザや自治会館の活用、パンフレット・リーフレットの作成など、工夫をしていこう。

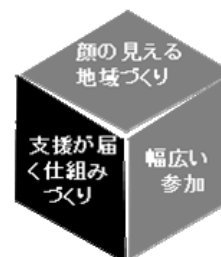
目標4 高齢者、障害者、子どもなど支援が必要な人に支援を届ける仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「どこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害が起きたとき、平日の昼間、夜間など、さまざまな状況下でどう対応するか、確認しておく必要がある。」など、今後も災害時の助け合いの体制を進めていくことが望まれています。

また、高齢化が進むなか、「行事やサロンなどの会場に行くのも難しい高齢者がいる」、「高齢者などの見守りを進めていきたい。」と、高齢者を支援する取組が望まれています。

そして、「学校に行けば子どもの姿が見えるが、地域からは見えない。」「近所に親子で遊べる場所が欲しい。」「子育てについて、親と話す機会が必要では。」など、子どもたちが健やかに育つための取組が望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇災害時に備えて、地域ぐるみで要援護者の支援体制づくりを進めていこう。
- ◇遠出、外出が難しい高齢者等も、近くで気軽に集まれる場づくりを進めよう。
- ◇高齢者等の日頃の見守りの取組を進めていこう。
- ◇地域で活動している民生委員児童委員、保健活動推進員などの活動者をもっとPRしていこう。
- ◇保育園・幼稚園・学校・保護者等関係者同士の情報交換などを行い、子どもを健やかに育てる仕組みづくりを進めよう。



荏田南地区 荏田南一～三丁目、大丸

地区の概況

荏田南地区は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされており、早くから入居が進んだ地区です。昭和58年8月に「かしの木台ハイツ」「しいの木台ハイツ」の入居とまちびらきを皮切りに、平成4年度までに一部の集合住宅を除き供用が完了しました。

地域を囲むように走る幹線道路沿いには中高層の建物が並び、商業・業務施設と住宅が併存しています。その内側は大半が住宅地で、戸建住宅と中高層の集合住宅とは、公園や学校、緑道を介して地域を分けて立地しています。また、鴨池公園を始めとする地域内の公園や学校、集合住宅の緑地は緑道や歩行者・自転車専用道路で結ばれています。



○地区内の自治会町内会 : 9

○地区内にある公立小中学校：荏田南小学校、荏田南中学校

統計データから見た荏田南地区

荏田南地区の人口は約10,000人で、荏田南一～三丁目では横ばいか微減、大丸では増加傾向です。荏田南一～三丁目ではここ5年の間に20歳代後半及び30歳前半で減少が見られます。また、荏田南一丁目では40歳以上及びその子どもの世代で徐々に転出があり、代わって30歳代の転入が見られます。一方、大丸では平成12～13年のマンション建設により40歳代前半及び10歳代前半での人口にピークがあり、かつ、いずれの年代でも人口は横ばいか増加しています。

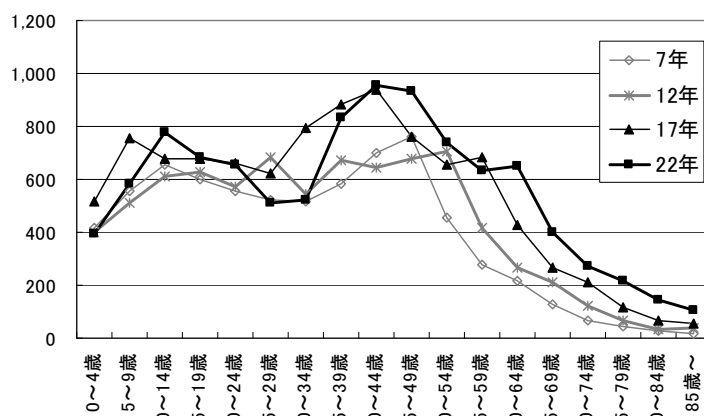
老年人口割合は荏田南三丁目では16.3%と高く、地域全体では11.4%です。また、年少人口割合は大丸で21.0%、荏田南二丁目では18.6%と高く、地域全体では17.5%です。

1世帯当たりの人口は地域全体で2.7人と高いですが、平成7年の3.0人に比べると減少しています。

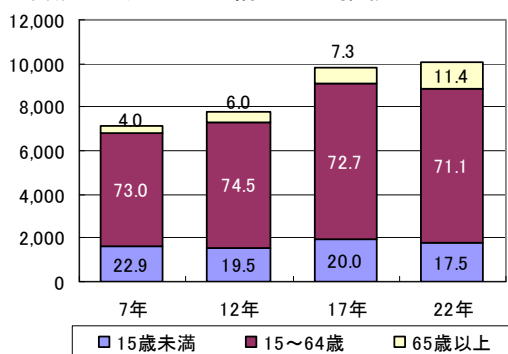
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	7,100	7,804	9,778	10,018
世帯数	2,395	2,665	3,412	3,652
平均年齢	32.3	34.5	35.5	38.9

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 地域の活動から人の「わ（和・輪）」を広げよう！

継続

防犯パトロールや小学校の見守り隊、すいとんの会などの地域の関係づくりを進める活動を行っています。また、地域情報誌「荇田南安心♡便利ノート」を発行しました。

これらの活動をとおした顔の見える関係づくりは着実に進んでいますが、災害時の取り組みのためにも顔の見える関係づくりを進めることは大切という意見や、気軽に立ち寄れる場が必要という意見があげられていることから、引き続き目標1に取り組んでいきます。

目標2 地域活動により多くの人に参加してもらえよう、様々な工夫をしよう！

継続



地域情報誌「荇田南安心♡便利ノート」を作成して情報を届ける取組みを行いました。また、どんど焼き、集まれ夏キャン、楽しくウォーキングなどの行事を行っています。

一方で、情報が届いておらず、参加者や担い手が固定化しているという意見もあります。

今後も様々な人に地域活動に参加してもらうために、引き続き目標2に取り組んでいきます。

目標3 地域のボランティアバンクの活用を進めよう！

継続

ボランティアグループEMS（えだみなみささえあい）は地域のボランティアバンクとサロンを行っています。活用者・担い手ともに不足しているという課題があります。また、地区内には多くのボランティア団体がありますので、EMSと各ボランティア団体も含めた、地域のボランティア全体を充実させる目標として、「荇田南のボランティアの仕組みを充実させよう！」とし、引き続き取り組んでいきます。



★2期計画に向けた新たな目標★

新規

荇田南地区では、平成20年度から災害時要援護者支援事業に取り組み、要援護者の登録や災害ボランティアの募集を行い、活動を通じた顔と顔の見える関係づくりが進んでいます。

また、地域懇談会では、子どもについても、「不安や悩みがあるものの、子育てについて話し合う場がない。」といった意見もでており、子どもから高齢者まで、必要な人へ幅広く支援を行うことが望まれています。

荇田南地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の活動から人の「わ（和・輪）」を広げよう！

現状と課題

顔と顔の見える関係づくりが進んでいる一方、「気軽に立ち寄れる場があると良い」、「サロンが遠いと足が向かない。」などの、居場所を必要とする意見があがっています。また、様々な趣味の集まりを通じた人とのつながりづくりも望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇自治会館などを開放して、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる場をつくろう。
- ◇犬の飼い主同士であいさつが交わせるようなネットワークがつけられるように進めていこう。
- ◇地域内の農地や菜園で、みんなで園芸や農業をする活動をしていこう。
- ◇定期的に各自治会館を回ってサロンを開催しよう。
- ◇防犯パトロールなど、現在ある地域の活動を継続・充実させていこう。

目標2 地域活動により多くの人に参加してもらえよう、様々な工夫をしよう！

現状と課題

「次世代の活動の担い手が少ない。」という意見がある中、「荇田南安心♡便利ノートを活用するなどして、活動の情報を広めていきたい」、「情報発信していきたい。」という意見があります。



これからこんなことに取り組みます！

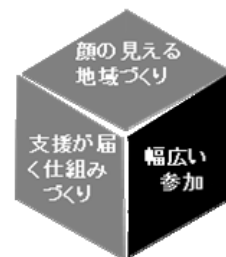
- ◇荇田南安心♡便利ノートの内容を充実させよう。
- ◇情報発信の方法を工夫しよう。
- ◇すでに様々な活動があるので、今ある活動を充実させよう。
- ◇各団体の活動を活発にするためにどのようなやり方がよいか、みんなで話し合おう。



目標3 荇田南のボランティアの仕組みを充実させよう！

現状と課題

「ボランティアの担い手がいない。」などの意見がある一方、ボランティアをやりたくても実際に活動できていないという現状があり、ボランティアをしたい人が活動とつながる仕組みの発展が望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇ボランティア同士を橋渡しするコーディネーターを養成しよう。
- ◇ボランティアは楽しいということを地域にPRして知ってもらおう。
- ◇地区内のボランティアグループやサークルの横のつながりをつくり、情報共有、情報発信を行おう。
- ◇一方的にボランティアをするのではなく、お互いにボランティアができるような仕組みを検討しよう。
- ◇ボランティアを始めるきっかけの場づくりをしよう。
- ◇ボランティアに向けた研修会を開催しよう。
- ◇ボランティア全体を統括する仕組みをつくろう。

目標4 必要な人に支援を届ける仕組みづくりをすすめよう！

現状と課題

荇田南地区では、平成20年度から災害時要援護者支援事業に取り組み、要援護者の登録や災害ボランティアの募集を行い、活動を通じた顔と顔の見える関係づくりが進んでいます。

また、地域懇談会では、子どもについても、「子どものことについて不安や悩みがあるものの、子育てについて話し合う場がない。」といった意見も出ています。そこで、子どもから高齢者・障害者も含めて、「必要な人に支援を届けるための仕組みづくりについて取り組もう。」という目標について取り組んでいくことが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇子育てのことを話し合う場をつくろう。
- ◇支援が必要な人が情報を得られるように、
「荇田南安心♡便利ノート」の内容を充実しよう。
- ◇今までの災害時要援護者支援活動を進めていこう。今までの活動を検証しよう。
- ◇災害時要援護者支援の活動に高校生も一緒に取り組もう。



渋沢地区 荏田東一～四丁目、荏田東町

地区の概況

南部の荏田東一丁目から四丁目は、港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。低層の戸建住宅を中心に、鴨池公園や緑道沿いに中高層の集合住宅が建てられています。また、新横浜元石川線沿いなどには中高層の建物が並び、商業・業務施設と住宅となっています。地域内の公園や集合住宅の緑地は緑道と歩行者自転車専用道路で結ばれており、特に、ささぶねのみちはせせらぎのある基幹的な緑道です。荏田東四丁目の区役所側は、区内最大の都筑中央公園や北部病院が立地し、センター南駅から続くタウンセンターの一部となっています。



けやきが丘住宅や隣接する商店街の荏田南近隣センターは港北ニュータウンで最初に供用開始された地区です。供用はおおむね南部から進み、公園や学校など一部を除き、平成4年度までに完了しました。

一方、北部の早淵川に沿う荏田東町は開発を受けず、宅地や農地となっています。

- 地区内の自治会町内会 : 5
- 地区内にある公共施設 : つぶきの丘小学校コミュニティハウス
- 地区内にある公立小中学校 : 荏田東第一小学校、つぶきの丘小学校

統計データから見た渋沢地区

渋沢地区の人口は約 8,000 人で、センター南駅寄りの荏田東一・四丁目では増加、他の町は横ばいです。増加の要因は主に 30 歳台前後の転入者によるものです。荏田東三丁目では 40 歳以上及びその子どもの世代で徐々に転出があり、代わって 30 歳代の転入が見られます。

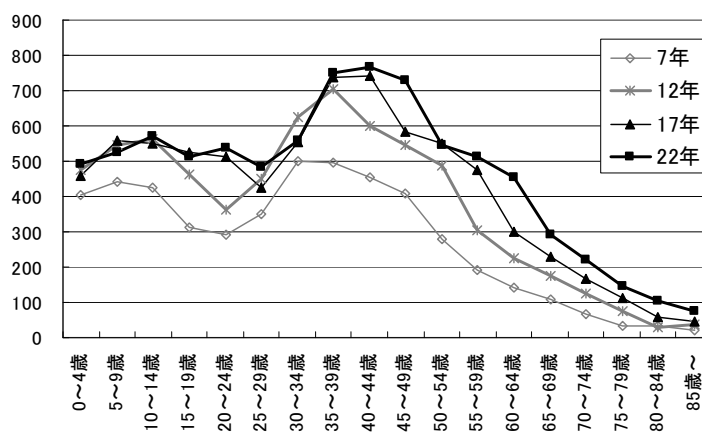
老年人口割合は荏田東町で 17.8% と高く、次いで荏田東三丁目の 12.8%、地域全体では 10.1% です。また、年少人口割合は荏田東四丁目で 22.6%、荏田東一丁目で 21.7% と高く、地域全体では 19.2% です。

1 世帯当たり人口は地域全体で 2.8 人と高いですが、平成 7 年の 3.2 人に比べると減少しています。

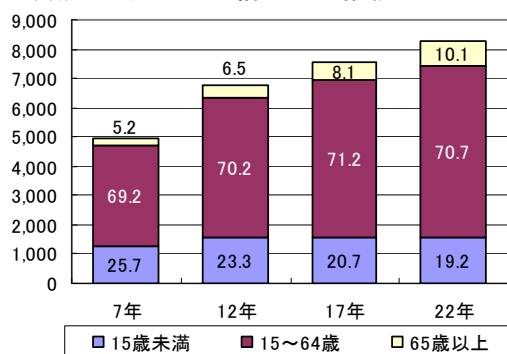
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	4,954	6,789	7,577	8,273
世帯数	1,562	2,181	2,615	2,972
平均年齢	31.9	33.6	35.5	37.3

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 地域の活動を活かして、人と人とのつながりの輪を広げよう！

継続

ふれあい昼食会や、昔遊びと芋煮会、渋沢ママの会、ささぶねのみちの清掃などの活動を行っています。

これらの活動をとおした顔の見える関係づくりは着実に進んでいますが、つながりづくりが難しい、集まれる場所がない、などの課題があります。

また、災害時の取組のためにも顔の見える関係づくりは大切と言う意見があり、この目標に引き続き取り組んでいきます。



目標2 地域の話題や課題を共有し、できることから取り組もう！

継続

自治会や地区社協では、日常的に地域の話題や課題を共有し、話し合いが行われていますが、活動の参加者や担い手が不足しているなどの課題が継続してあげられています。

また、地域の住民一人一人の意見を大切にするためにも、話題や課題を共有する場が望まれていることから、「目標3 地域みんなの意見を大切にしよう！」と合わせて一つの目標として、引き続き取り組んでいきます。

目標3 地域みんなの意見を大切にしよう！

継続



自治会や地区社協では、定例的に会議を開き、地域みんなの意見を集めています。地域住民一人一人の意見を大切にするためには、地域での情報共有する場が必要という課題がありますので、

「目標2 地域の話題や課題を共有し、できることから取り組もう！」と合わせて一つの目標として、引き続き取り組んでいきます。

目標2へ

★2期計画に向けた新たな目標★

新規

地域のどこに支援が必要な人がいるのかわからない、災害があったときにまちぐるみで助け合い支えあう必要がある、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちの方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、懇談会などで話し合いが進んでいます。そのため、災害時も含め、日頃からの助け合いを行う必要があることから、「必要な人に支援を届けるための仕組みづくりについて取り組もう」という目標について取り組んでいくことが望まれています。

渋沢地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の活動を活かして、人と人とのつながりの輪を広げよう！

現状と課題

渋沢地区では様々な活動や行事が行われ、顔の見える関係づくりが進む一方、「地域でのつながりが薄い。」「集まれる場所がない。」などの課題が継続してあげられています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇気軽にお茶を飲みながら話せる場所をつくろう。
- ◇自治会館以外にも、屋外での活動を考えよう。
- ◇地区内の3つの小学校と地域で、合同でイベントを行おう。
- ◇もっと子どもたちに参加してもらおう行事を企画しよう。また、中高生に活動や行事の企画から参加してもらおう。
- ◇自然環境や緑道などを生かした取組を行っていこう。
- ◇古くから住む人の経験を生かしながら、新しく転入してきた人も交えて地域づくりをしていこう。



目標2 地域みんなの意見を大切にしながら様々な話題や課題を共有し、できることから取り組もう！

現状と課題

活動の担い手が固定化、不足しているなどの課題が毎年あげられています。これらの課題に対して、地域のいろいろな人達の意見を大切にするために全体で話し合い、取り組むことが望まれています。



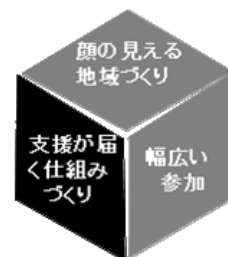
これからこんなことに取り組みます！

- ◇回覧板や掲示板以外で情報を伝えていくための方法を考えていこう。
- ◇いろいろな団体で活動している人達が持っている情報や、課題と感じていることなどを話し合う場を持とう。
- ◇住んでいる人のニーズを把握するために、地域でアンケートを実施しよう。

目標3 必要な人に支援を届ける仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「地域のどこに支援が必要な人がいるのか分からない。」「災害があったときにまちぐるみで助け合い、支え合う必要がある。」といった意見があり、子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちな方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりについて、地域懇談会などで話し合いが進んでいます。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域内でボランティア登録、育成を行おう。
- ◇関係が近すぎて頼みづらいときは、葛が谷地域ケアプラザのほほえみの会を活用しよう。
- ◇自治会館、学校、交番、コミュニティハウス、団地の空き部屋などを利用して地域の何でも相談所のようなものをつくっていこう。
- ◇災害時要援護者も一緒に防災訓練を実施しよう。
- ◇発災時は中高生にもマンパワーになってもらおう。
- ◇区役所、ケアマネジャー、地域ケアプラザ、民生委員児童委員が情報共有するためのネットワークづくりをしよう。



茅ヶ崎南MGC地区 茅ヶ崎南四丁目

地区の概況

全域が中高層の集合住宅となっており、港北ニュータウンの中では比較的早い平成元年から入居が始まりました。地域南部を通る基幹的緑道であるささぶねのみち沿いは保存緑地となっています。

連合名にあるMGCは、域内の3つのマンション名の頭文字（メゾンふじの木台、港北ガーデンホームズ、クレストヒルズ）をとったものです。いずれも平成元年から2年にかけて完成した大規模な集合住宅です。その後平成15年及び20年には、既開発地の南西側にさらに集合住宅の建設がなされています。



○地区内の自治会町内会：4

統計データから見た茅ヶ崎南MGC地区

※統計データは茅ヶ崎南四丁目全体

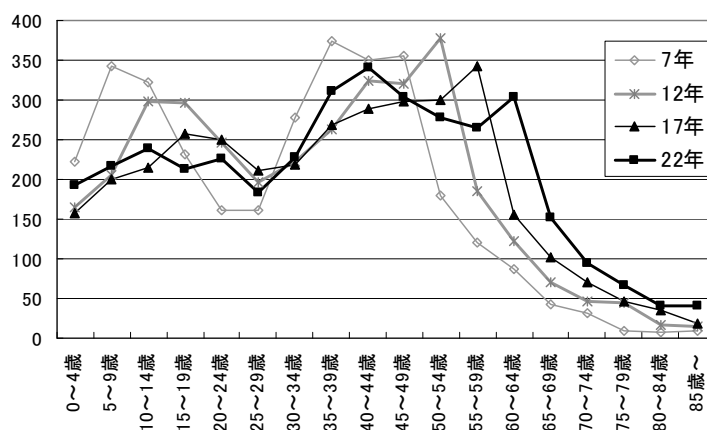
茅ヶ崎南MGC地区は茅ヶ崎南四丁目内に所在しています。茅ヶ崎南四丁目は茅ヶ崎南MGC地区と勝田茅ヶ崎地区にまたがっており、MGC地区は西側の大規模な集合住宅で、東側の戸建住宅を中心とする地区は勝田茅ヶ崎地区に含まれます。茅ヶ崎南四丁目の人口は昭和63年には約100人でしたが、マンション建設に伴い平成2年には3,200人と急激に増加しました。現在では新たなマンション建設に伴う増加が見られるほかは、ほぼ横ばいです。

5歳階級別人口では40歳後半以上及びその子どもの世代で徐々に転出と思われる減があり、代わって30歳代を中心とする転入と思われる増が見られます。年少人口割合は17.6%で、15年前と比較し約10ポイント低下しています。一方、老年人口割合は増加傾向ですが10.7%にとどまっています。1世帯あたり人口は2.8人です。

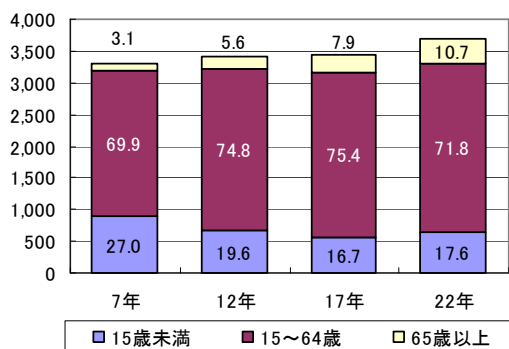
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	3,289	3,413	3,440	3,695
世帯数	1,029	1,106	1,169	1,323
平均年齢	32.9	33.8	35.5	37.2

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



第1期計画の成果と振り返り（平成18年～22年）

目標1 地域の活動をきっかけにして、顔の見える関係をつくろう！

継続



連合の夕涼み会を始めとする各自治会のお祭りや清掃活動などの行事が、新旧住民の顔を合わせる機会になっていたり、自治会の役員になることで、近隣の人を知るチャンスになったという意見がありました。

また、転出入が多いため、あいさつをし合って周りを知ることが必要です。高齢者が小学校に出向いて昔遊びを教えるなどの交流を行っています。

今後も引き続き目標1に取り組んでいきます。

目標2 地域の活動をつないで、協力して地域の課題に取り組もう！

継続

また、地域ケアプラザ、地区社会福祉協議会が「子育てサロン」「おしゃべりサロン」などをメゾンふじのき台の集会所で開催しています。

地域では様々な活動が行われているので、幅広く参加してもらい、介護予防や健康づくりも合わせ、引き続き目標2に取り組んでいきます。



目標3 健康で暮らすために、地域で保健活動を！

継続



健康で暮らすために、目標2「地域の活動をつないで、協力して地域の課題に取り組もう！」と合わせて取り組んでいきます。

目標2へ

★2期計画に向けた新たな目標★

新規

茅ヶ崎南MGC地区においては、災害時に子ども・障害者・高齢者・閉じこもりがちな方など要援護者に対する支援や助け合いの仕組みづくりに関し、必要性や方法について話し合いが行われています。

そこで、新たに「支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりを進めます！」の取組を進めています。

茅ヶ崎南MGC地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 地域の活動をきっかけにして顔の見える関係をつくろう！

現状と課題

「転出入が多く、どこにどんな人がいるかわからない。」「地区内ではどんな活動をしているかわからない人が多い。」「知らない人と話をするきっかけがつかめない。」などの状況があります。防災や防犯のためにも顔の見える関係をつくっていくことが必要です。



これからこんなことに取り組みます！

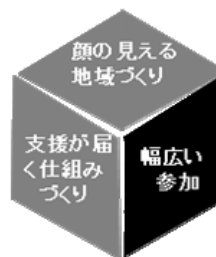


- ◇あいさつをするなどの声かけ運動をしていこう。
- ◇地域で行っている清掃活動や夕涼み会、餅つきなどをPRして、参加してもらい、顔の見える関係づくりを進めていこう。
- ◇地域の活動の情報を掲示板や回覧板などを工夫してPRしていこう。
- ◇囲碁、将棋、太極拳など誰でも気軽に参加できるような場をつくっていこう。
- ◇緑豊かな環境を維持していくために、自治会・子ども会・シニアクラブ・公園愛護会など現在活動している団体と連携していこう。

目標2 地域の活動団体をつなぎ、協力して地域の課題に取り組もう！

現状と課題

子ども会、PTA、自治会、民生委員児童委員協議会等地域で活動している活動団体が情報交換をする機会がほとんどありません。各団体がどんな活動をしているのか知られていないため、お互いの活動内容を共有していく必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇自治会単位で子ども会、青少年指導員、体育指導委員、保健活動推進員などの団体や関係者の活動の情報を共有していこう。
- ◇地区内の様々な団体の活動内容を周知して、活動に参加してくれる人や担い手を増やしていこう。
- ◇健康でいきいきと暮らし続けるために保健活動推進員を中心に、緑豊かな環境を活用した健康ウォーキングなどに取り組んでいこう。

目標3 支援が必要な人に支援を届けるための仕組みづくりを進めま

現状と課題

「どこに支援が必要な人がいるのか、どんな人がいるのか分からない。」「災害時の助け合いの仕組みづくりがまだ不十分。」「民生委員児童委員、自治会などの連携が必要。」などの課題があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇各自治会で、どこに支援が必要な人がいるのか、どんな人がいるのか、どこに何があるかなどの地区の状況を日頃からの付き合いや活動から把握していこう。
- ◇災害時要援護者支援事業「つづき そなえ」の取組を進めていこう。
- ◇高齢者のごみ出しを子どもたちに手伝ってもらおうなど、福祉や保健の課題について関係者と一緒に考えていこう。



ふれあいの丘地区 葛が谷、高山、富士見が丘、見花山

地区の概況

グリーンライン都筑ふれあいの丘駅を中心とする、港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。

駅周辺は駅前センターとして日常的なサービスを提供する商業施設等が立地するほか、大規模な集合住宅、事業所があります。また、プールや老人福祉施設、地域ケアプラザなど福祉施設・市民利用施設が集まっています。

その他の地域は、戸建住宅が中心で、幹線道路沿いは中高層の建物が並び、商業・業務施設と住宅が併存しています。

地域内の公園や緑地、公共施設は緑道や歩行者・自転車専用道路で結ばれています。富士見が丘には川和富士公園が整備され、かつての川和富士を再現しています。



- 地区内の自治会町内会 : 6
- 地区内にある公共施設 : 葛が谷地域ケアプラザ、都筑センター
- 地区内にある公立小中学校 : 川和東小学校、川和中学校

統計データから見たふれあいの丘

ふれあいの丘地区の人口は約9,600人で、平成17～18年にかけて高山でのマンション建設に伴い約2,000人の増加があったほかは、全体に緩やかな増加傾向です。

年代別の人口については、高山で30～40歳代とその子どもの世代が突出して多い特徴があります。また、駅前のマンション建設が早くから進んだ葛が谷では40歳以上及びその子どもの世代で徐々に転出があり、代わって30歳代の転入が見られます。富士見が丘、見花山では年齢構成の変化は大きくありませんが、40歳代以下の若い世代を中心に転出入が見られ、かつ転入超過の傾向です。

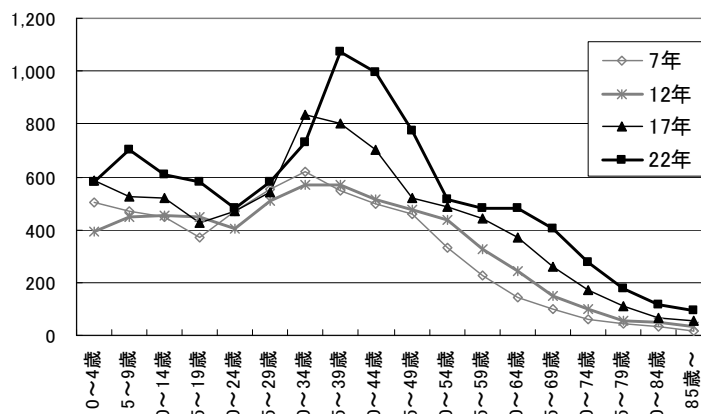
地域の老年人口割合は見花山の15.2%が最高で地域全体では11.0%です。また、年少人口割合は高山で25.9%と高く、地域全体では19.6%です。

1世帯当たりの人口は地域全体では2.6人ですが、都筑ふれあいの丘駅前の葛が谷では2.3人と低くなっています。

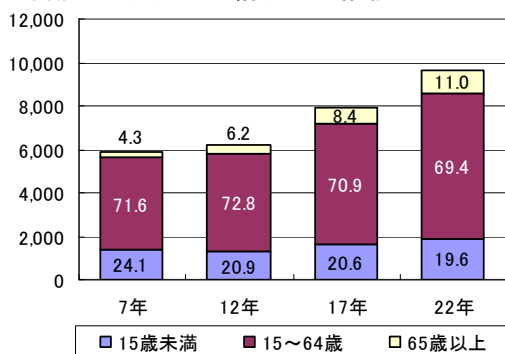
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	5,887	6,166	7,890	9,630
世帯数	2,002	2,176	2,878	3,672
平均年齢	31.2	34.1	35.4	37.0

○5歳階級別人口の推移



○年齢3区分別人口構成比の推移



地区別計画の策定に向けた地域懇談会での意見（平成22年）

ふれあいの丘連合自治会が平成20年に設立されたため、ふれあいの丘地区として第2期地域福祉保健計画から地区別計画を策定します。今回、策定にあたり、地域懇談会を開催し、「取組の3つの方向性」をテーマに話し合いました。これをもとに検討を進め、目標と取組内容を定めました。

「方向性1 顔の見える関係づくりを進めます」について

このテーマの話し合いでは、「ふれあいの丘地区は住みやすい安全なまちである。」という意見がある一方で、「転出入が多く隣近所との交流が難しい。」などの意見もありました。

話し合いから見出された地域の目標

誰もが地域で安心して暮らし続けるために基本となる関係づくりを進めていく必要性についての意見が多かったことから、「顔の見える関係づくりを進めよう！」を目標とします。



「方向性2 幅広い区民参加で活動や取組の輪を広げます」について

このテーマの話し合いでは「趣味やテーマ別の集まりはあるが、相互のつながりが薄い。」「自治会町内会の中のつながりはあるが、町内会を越えてのつながりが薄い。」「どんなテーマの活動なら参加してくれるのかわからない。」「民生委員児童委員・友愛活動推進員・保健活動推進員などの活動が知られていない。」など、日頃から行われている活動に関する意見が多く出されました。

話し合いから見出された地域の目標

ふれあいの丘地区の様々な活動を実践している人たちが連携・協力して地域活動やボランティア活動などを充実させていこうという意見があったことから、「地域の活動をつないで、協力して地域の課題に取り組もう！」を目標とします。

「方向性3 必要な人に支援が届く仕組みづくりを進めます」について

「自治会活動に若い世代が参加できるような体制をつくっている。」「地域の行事へは子どもが中学生くらいまでは参加するが、高校生以上になった親の参加が少なくなる。」「子育て中の保護者は行き場がなく、孤独と感じている人が多い。」「子どもは塾や習い事で忙しく、地域との交流が少ない。」など、若い世代のことについて話し合われました。

また、「民生委員児童委員が要援護者マップを作っているが、いざというときに活用できるようにしていきたい。」「現在取り組んでいる災害時要援護者支援を進めていこう」など、必要な人への支援の方法について話し合われました。

話し合いから見出された地域の目標

子どもや子育てに関する意見が多く出され、ふれあいの丘地区は若い世代が多い地区でもあるため、「若い世代に地域活動への参加を呼びかけ、担い手を育てよう！」を目標とします。

また、現在、取り組んでいる必要な人への支援の活動の継続やしたいという意見や、災害時要援護者支援の取組などをこれから進めていくという意見があったことから、「高齢者など、必要な人に支援が届くための仕組みづくりを進めよう！」を目標とします。

ふれあいの丘地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 顔の見える関係づくりを進めよう！

現状と課題

「転出入が多く隣近所の人との交流が難しい。」「行事や活動への参加者が少ない。」などの課題があげられています。日頃からの顔の見える関係づくりを進め、交流を深めていく必要があります。



これからこんなことに取り組みます！



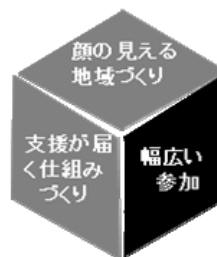
- ◇向こう三軒両隣に声を掛け合い、日頃からの交流を進めていこう。
- ◇自治会に加入する人を増やすために地域と行政とが一緒に取り組んでいこう。
- ◇今行っているどんど焼き、夏祭り、都筑ふれあいの丘まつりなどの行事を充実させていこう。
- ◇誰でも気軽に集えるようなふれあいの居場所づくりを進めていこう。
- ◇「ふれあいの丘地区 暮らしの便利帳」を活用するなど、活動や行事をPRして参加者を増やしていこう。

目標2 地域の活動をつないで、協力して地域の課題に取り組もう！

現状と課題

「趣味やテーマ別の集まりはあるが、活動相互のつながりがない。」「地域の中にどんな活動があるのか分からない。」などの課題があげられています。

活動をつないで協力していく体制をつくることが望まれています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇地区内で活動をしている様々な団体が話し合える場を充実していこう。
- ◇活動者相互が情報交換や交流など、話し合える機会をつくっていこう。
- ◇ボランティアグループなどをPRしていこう。
- ◇自治会が連携して取組を進めていこう。

目標3 若い世代に地域活動の参加を呼びかけ、担い手を育てよう！

現状と課題

地域の活動に参加する人が少ない、限られているなどの課題がある中、若い世代が自治会役員になり活動をすることで、地域のつながりができている地区もあります。新たな担い手を育てることが必要とされています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇若い世代が参加するだけでなく、担い手側にもなれるような仕組みづくりを進めていこう。
- ◇子どもや子育て世代が気軽に集まれるような場づくりを進めていこう。
(例 中学校で赤ちゃんとのふれあい会を開催する、サロンをつくるなど)
- ◇子どもたちに企画段階から参加してもらい、地域の人と子どもたちが協力して活動を考えていこう。



目標4 高齢者など、必要な人に支援が届くための仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「高齢者が気軽に集まれる場がない。」「いざという時は心配という人が多い。」などの課題があり、支援が必要な人をみんなで協力して支えるための仕組みをつくる必要があります。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇いつまでも元気でいられるような集まれる場をつくろう。
- ◇みんなの集まる行事や敬老会などで周知して、要援護者として登録したい人に申し込んでもらおう。
- ◇マップづくりなど現在取り組んでいる災害時要援護者支援活動を進めていこう。
- ◇民生委員児童委員・保健活動推進員などの活動をPRしていこう。



柚木荏田南地区 荏田南四、五丁目、荏田南町

地区の概況

センター南駅と荏田駅の間に位置します。

南部の荏田南四・五丁目は港北ニュータウンにより計画的なまちづくりがなされた地域です。低層の戸建住宅が中心で、みずきが丘住宅や幹線道路沿いが中高層の住宅となっています。港北ニュータウンの中では早くから入居が進んだ地区で、中でもみずきが丘住宅や、商店街の荏田南近隣センターなどは昭和 58 年 8 月のニュータウンのまちびらきともに入居開始・オープンしました。折田不動公園をはじめ地域内の公園や緑地・商店街は歩行者・自転車専用道路で結ばれています。

一方、北部の荏田南町は宅地や農地が混在する地域となっており、小学校や高齢者施設があります。



○地区内の自治会町内会 : 4

○地区内にある公立小中学校：荏田小学校

統計データから見た柚木荏田南地区

柚木荏田南地区の人口は約 4,000 人です。宅地造成のあった荏田南五丁目で増加しているほか、微増か横ばいです。年代別の人口構成では、荏田南四丁目で 20 歳代前半の人口が多い特徴があります。また、荏田南五丁目では 40 歳以上及びその子どもの世代で徐々に転出があり、代わって 30 歳代の転入が見られます。

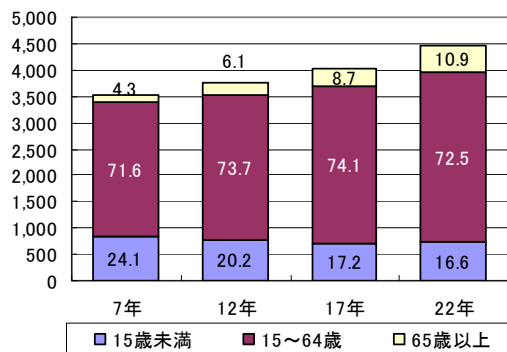
地域の老年人口割合は荏田南町で 24.4%と高く、地域全体では 10.9%です。また、年少人口割合は荏田南五丁目で 17.8%と高く、地域全体では 16.6%です。

1 世帯当たりの人口は地域全体で 2.6 人ですが、荏田南町では 2.2 人と低くなっています。

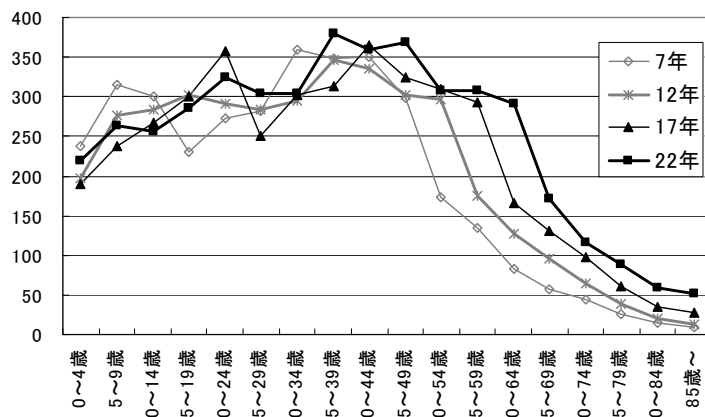
○人口・世帯数・平均年齢の推移

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	3,537	3,743	4,029	4,458
世帯数	1,253	1,362	1,511	1,704
平均年齢	31.5	34.0	36.6	38.5

○年齢3区分別人口構成比の推移



○5歳階級別人口の推移



地区別計画の策定に向けた地域懇談会での意見（平成22年）

柚木荏田南連合自治会が平成21年に設立されたため、柚木荏田南地区として第2期地域福祉保健計画から地区別計画を策定します。今回、策定にあたり、地域懇談会を開催し、「取組の3つの方向性」をテーマに話し合いました。これをもとに検討を進め、目標と取組内容を定めました。

「方向性1 顔の見える関係づくりを進めます」について

このテーマの話し合いでは「新しい人が多くなってきて、住んでいる人の顔が分からない。」「情報を得るのが難しい。」という意見の一方、「連合になって他の自治会の活動を知ることができた。」などの意見もありました。

話し合いから見出された地域の目標

誰もが地域で安心して暮らし続けるために基本となる関係づくりを進めていく必要性についての意見や、新しい連合での活動を進めていきたいという意見が多かったため、「顔の見える関係づくりを進めよう！」を目標とします。



「方向性2 幅広い区民参加で活動や取組の輪を広げます」について

このテーマの話し合いでは「役員の後任がない。」「人を探すのが大変。」「民生委員児童委員・保健活動推進員などの団体がどんなことをしているか分からない。」など、活動に関する話が多く出されました。

話し合いから見出された地域の目標

地域活動やボランティア活動など柚木荏田南地区の様々な活動を実践している人たちが、お互いの活動を知り、連携協力して充実させていこうというアイデアが多く出されたので、「地域の活動をつなぎ、協力して課題に取り組もう！」を目標とします。



「方向性3 必要な人に支援が届く仕組みづくりを進めます」について

「子どもたちが安全で安心して遊べる場がない。」「世代間の接点がなかなかない。」「子ども会に入らない人が増えている。」など、子どもや子育てについて多くの意見が出されました。

また、「どこにどんな人が住んでいて、どんなことに困っているか、どこまで入り込んでいか分からない。」など、必要な人への支援の現状について意見が出されました。

話し合いから見出された地域の目標

柚木荏田南地区では、子どもの居場所に関する意見や子ども会の活動を活発にしたいという意見が出されたので「地域での子育て支援を充実しよう！」を目標とします。

また、支援が必要な人の把握やアプローチについての意見が出されたことや、これから災害時要援護者支援の取組をすすめていくことから、「必要な人に支援が届く仕組みづくりを進めよう！」を目標とします。

柚木荏田南地区の第2期計画（平成23年～27年）

目標1 顔の見える関係づくりをすすめよう！

現状と課題

「新しい人が多くなってきて、住んでいる人の顔が分からない。」「情報を得るのが難しい。」という意見の一方、「連合になって他の自治会の活動を知ることができた。」などの意見もありました。

これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域で行っている、どんど焼き・お祭り・防災訓練や清掃活動・下校時の見守り活動などをきっかけにつなぎづくりを進めていこう。
- ◇赤ちゃんから高齢者までが気軽に集まれる場づくりを検討していこう。
- ◇自治会館の活用をPRして、地域の関係づくりを進めていこう。
- ◇地域の情報やルールを積極的に伝えていこう。



目標2 地域の活動をつなぎ、協力して課題に取り組もう！

現状と課題

「役員の後任がない。」「人を探すのが大変。」「民生委員児童委員・保健活動推進員などの団体がどんなことをしているか分からない。」など、活動に関する話が多く出されました。

これからこんなことに取り組みます！

- ◇地域のそれぞれの活動が連携し取組を進めていこう。
- ◇地域活動を経験してもらい、関心を持つ人を増やしていこう。
- ◇他の自治会のことや福祉保健など、様々な活動や活動している人のことを知るために、地域懇談会のようなみんなで分かり合える話し合いの場を持とう。



目標3 地域での子育て支援を充実しよう！

現状と課題

「子どもたちが安全・安心して遊べる場がない。」、「世代間の接点がなかなかない。」、「子ども会に入らない人が増えている。」など、子どもや子育てについて多くの意見が出されました。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇自治会・PTA・学校・子ども会などが話し合い、子どもが参加しやすい場をつくっていこう。
- ◇お祭りやどんど焼きなどの地域の行事を通して、世代間交流を進めよう。

目標4 必要な人に支援を届ける仕組みづくりを進めよう！

現状と課題

「どこにどんな人が住んでいて、どんなことに困って、どこまで入り込んでいいかわからない。」、「支援を拒んでいる人や、支援が必要な人にどんなアプローチをしたらよいか分からない。」などの意見が出されました。

災害時要援護者支援の取組を通じ、地域に住む要援護者の状況把握をはじめ、地域全体で必要な人に支援を届けるための仕組みづくりを進めることが必要とされています。



これからこんなことに取り組みます！

- ◇災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）で柚木荏田南地区の実態を知り、要援護者の把握、登録や災害時の支援者の募集などの取組を進めていこう。

